



技術士だより・九州

公益社団法人 日本技術士会九州本部 夏季号<第128号> (令和3年7月15日発行)



「菜たばこの植え付け」 別府和代



「私の好物」 中原まり子



「環境を守る」 大迫豊昭



「親子でジャガイモ掘り」 仙名良一

第29回かごしまフォト農美展

鹿児島県の2019年農業産出額は4,890億円である。この産出額は北海道に次ぎ、全国第2位の額である。鹿児島県は3年連続、農業産出額2位を維持している。さらに、2019年お茶生産額が、初めて静岡県をぬいて、全国1位になった。

鹿児島県の地勢は、内地の熊本・宮崎県境から沖縄県境の奄美と論島までの南北600kmに及ぶ。そこには温帯気候から亜熱帯気候にかけて多種多様な農業が営まれている。

鹿児島県農業農村整備情報センターでは、毎年、「鹿児島県内の魅力ある農業と農村」をテーマに写真を公募している。第29回(2020年)では1,263点の応募があった。このうち特別賞を受賞した4点の作品である。

井内 祥人(森林・鹿児島)

目次

巻頭言	1
私の提言	2
声の広場	3
熟練技術士の声	6
独立技術士の声	7
修習技術者の声	8
私のチャレンジ	9
地域の話	10

次

ミニ特集	11
土木遺産シリーズ(24)	15
中央・統括本部情勢	16
委員会・部会報告	17
支部だより	24
会員ニュース	26
お知らせ	26
協賛団体会員	27

災害からの復旧・復興と将来の基盤となる 社会資本整備について

福岡県県土整備部長 にしかわ まさひろ
西川 昌宏
(建設・福岡)



福岡県では、全国で唯一「大雨特別警報」が4年連続で発表されており、毎年のように大規模な自然災害に見舞われています。特に平成29年7月九州北部豪雨では、気象庁における当時の観測史上最大であった12時間雨量707mmをわずか9時間で超える774mmという記録的豪雨となりました。主に朝倉市、東峰村で発生した多数の山腹崩壊や河川の氾濫により、大量の土砂と流木が下流域まで広範囲に流れ込むなど、死者、行方不明者39人に及ぶこれまでに例のない甚大な被害をもたらしました。県では、100名以上の職員からなる災害事業センターを立ち上げ、復旧事業を進めてきた結果、まもなく5年目を迎える被災地の復旧工事は大詰めの段階を迎えています。一日も早い被災地の復旧・復興に向けて、全力で取り組んでまいります。

また、平成30年7月豪雨、令和元年7月、8月の大雨では、大規模な浸水被害が発生しており、国、県、関係市町村が連携して浸水対策事業を進めています。さらに、4年連続となった昨年7月の豪雨では、筑後地域を中心に死者2名、重軽傷者6名、床上浸水1,460戸、床下浸水3,593戸という大きな被害が発生しました。このように繰り返される豪雨・大雨災害に対してスピード感をもって事業を進めるとともに、流域内のあらゆる関係者が協働して取り組む「流域治水」への転換が必要だと強く感じています。そのため、令和3年5月に流域治水協議会を発足し、県が管理する二級水系における「流域治水プロジェクト」の今年度中の策定を目指しています。平成30年度から進めていた「防災・減災、国土強靱化のための3カ年緊急対策」に続き、今年度からは「防災・減災、国土強靱化のための5カ年加速化対策」予算を最大限活用し、災害からの復旧・復興や県土の強靱化に向けた取り組みを着実に進めてまいります。

福岡県は、古くから大陸への玄関口として、我が国の発展に貢献してきた地域であり、多彩なネットワークを有する「福岡空港」、24時間利用可能な「北九州空港」に加え、国内有数の外航クルーズ船寄港回数を誇る「博多港」、自動車産業が集積する「苅田港」、世界遺産の構成資産かつ稼働資産である「三池港」など、優れた交通拠点を持っています。県では、これらを最大限に活用し、経済の循環を拡大するために中長期的な視点に立ち、将来の成長の基盤となるストック効果の高い社会資本の整備にもしっかりと取り組んでいます。これまで県議会や関係自治体とともに国に強く要望してきた「下関北九州道路」については、昨年度、国において計画段階評価が実施され、ルート帯を決定する対応方針が示されました。今年度から、国と関係自治体が調査主体として、環境影響評価や都市計画決定に向けた調査、設計等を実施する予定となっています。また、九州縦貫自動車道・九州横断自動車道のクロスポイントに令和元年度から整備中の味坂スマートインターチェンジ（仮称）及びアクセス道路については、その好立地がもたらす物流の効率化や周辺開発・起業誘致の促進など地域経済の活性化が期待されます。拠点整備としては、自動車関連産業などが集積する苅田港において、好立地を活かした新たな工業用地の造成を進めています。

このように、県民の安全・安心な暮らしを確保するとともに、将来の発展を支える社会資本整備を通じて、誰もが住み慣れたところで長く働き、暮らせる福岡県を目指しています。

また、地元の建設業者は、地域の守り手としての重要な役割を担っており、災害時だけでなく、コロナ禍においても社会基盤の維持に欠かせないエッセンシャルワーカーとして社会に認知されつつあります。しかし、中長期的な担い手の確保・育成が大きな課題となっており、建設業界の体制を維持するため、生産性向上や働き方改革の取り組みに積極的にチャレンジし、業界と一緒に取り組んでいきたいと考えています。

最後に、自然災害の激甚化・頻発化やインフラの老朽化の進展、インフラ分野のDX化への対応など、建設業界が直面している大きな変化や幅広いニーズに的確に対応していくため、高度な技術力を有する技術士の皆様に期待される役割は益々大きくなると考えています。技術士会九州本部の会員におかれましては、さらに研鑽に励まれ、今後も益々ご活躍されることをご期待申し上げます。

専門分野の拡充と情報共有

ながい まさあき
永井 雅明

(機械、総合技術監理・長崎)



1. 専門分野の拡充

技術士に求められるコンピテンシーのうち、「専門的学識」は、21の技術部門で産業経済、社会生活の科学技術に関するほぼ全ての分野をカバーされてきた。ただ、現代社会の多種多様かつグローバルな技術的課題を迅速に解決するためには、現在の専門分野のカテゴリーでは十分でないと感じている方も多いだろう。持続可能な社会の実現するために掲げられたSDGsの17の目標は、経済・社会・環境の調和を目指していることもあり、多くの人々に受け入れられ、かなりのスピードで認知されつつある。

技術士としてこれらの課題に貢献するためには、CPDの実践を積みながら、さらなる専門分野の拡充に研鑽が不可欠となっている。私の専門分野である機械部門（動力エネルギー）に関連するSDGs目標を例にとると、⑦「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」が相当する。さらに、関連目標としては、⑧「働きがいも経済成長も」、⑨「産業と技術革新の基盤をつくろう」、⑩「人や国の不平等を」、⑪「住み続けられるまちづくりを」、⑫「つくる責任 使う責任」、⑬「気候変動に具体的な対策を」、⑰「パートナーシップで目標を達成しよう」などがある。もちろん、このなかには政治・外交・人権などの範疇となる課題もあるが、解決策としては科学技術と結びつくものが多い。これを技術士の部門に当てはめると、機械・化学・建設・経営工学・環境・電気電子・資源工学・経営工学・情報工学など複数の専門分野と関係付けられるが、これらの多くを習得するには時間もかかるし現実的ではない。

また、日本政府は今年4月の気候変動サミットにおいて、温室効果ガスの削減目標を2013年度比で従来の26%から大幅に引き上げ46%にするとの方針を表明した。具体的には産業分野では、再生エネルギーの拡大や石炭火力発電所の縮小など、運輸分野では電気自動車の普及やバイオ燃料や水素への転換など、家庭分野では太陽光パネルに加え蓄電池の利用や省エネなどが挙げられるが、未だ開発途上の技術もあれば産業構造転換を迫られる業種もある。

しかも9年後という短期間での実現を求められるため、これまでと同じような技術開発スピードでは達成は難しいだろう。これはエネルギー問題に限ったことではなく、衛生工学・農業・水産・生物工学などでも同様の課題を抱えているものと推測される。

一方、総合技術監理部門の技術体系では、「経済性管理」「情報管理」「安全管理」「社会環境管理」などの視点から俯瞰的に評価することは可能であるが、幅広い専門的学識を兼ね備えていないと対処できる問題は限られる。現代社会ではこのような総合的な観点から課題解決を迫られる問題が増えており、技術士制度も専門分野の拡充や分野の統合など必要な時期に来ているのかもしれない。

2. 情報共有

このような時代だからこそ、産業経済や暮らしの科学技術の経験豊富な技術士がプロフェッションとしてリードしていくのが望ましいと思うが、果たして現状の技術体系やCPD等で対応可能であろうか。技術士会主催の講習会や研修会だけでは専門や他分野の最新状況を垣間見ることができることはできるが、専門分野の横通しや技術共有が十分とはいえない。CPDの基本は、多くの技術情報を関係者と共有する中で、新たな発想や特許出願、論文発表、講演会、新製品への展開などの「発信力」を充実させる必要がある。そのために、まずは日本技術士会と各企業・大学・団体等の技術士会と連携して、より多くの技術情報を共有できるようになればと思う。技術士会の会員としては、月刊技術士・Peープラスや各本部の技術士だよりの閲覧だけでなく、分野別やテーマ別の検索やキーワードによる文字検索や、各団体の発行する技術雑誌の目次などを容易に検索できるようになれば、知りたい情報を効率よく調査する足掛かりともなり、技術の発展に役立つものと考えられる。日本技術士会には制度改革やCPDの見直しとともに、さらなる高度化のために技術情報の拡充と共有化にも取り組んでいただきたい。

所属：三菱パワー株式会社

(E-mail : masaaki.nagai.cd@mhi.com)

技術士事務所の開設

— 定年退職を迎えて —

はらだ まさのり
原田 正則

(建設、総合技術監理・福岡)



1. はじめに

私は、今年5月に長年在職した建設会社を定年退職し、個人の技術士事務所を開設しました。開設したと言いましても、ゼロからのスタートですが、技術士だより・九州の「声の広場」への投稿のお話がありましたので、この機に、これまでの技術士人生を振り返ってみようと考えました。

私の略歴ですが、昭和54年に建設会社に入社し、現場部門で25年、管理部門で13年、教育部門で5年業務を行ってきました。

技術士資格は、平成9年(1997年)に建設部門で技術士資格を取得し、その後平成15年に総合技術監理部門の資格を取得しました。定年まで「企業内技術士」として仕事を行ってきました。技術士の資格取得は、とても苦労しましたが、取得後は自分の自信にも繋がり、業務を推進する上でとても役だったと思っています。

2. 企業内技術士の時代(YCE福岡との出会い)

企業内技術士時代の特筆すべきことは、「YCE福岡」への参加です。私は、技術士資格を取得後直ぐに「YCE福岡」の存在を知りました。業務の調整をして出席したことを覚えています。「YCE福岡」への参加がなければ、今の技術士としての私がなかったような気がします。ここで、当時の記録から「YCE福岡」の紹介をしておきます。今の「青年技術士交流委員会」の前身だと理解しています。「YCE福岡」とは(「日本技術士会九州支部技術士だより」より引用)

①名称: Young Consulting Engineers の頭文字をとったもの ②設立: 平成4年 ③設立目的: 若手技術士がそれぞれの得意分野で知恵を出し合う事によって予想もしなかった「ひらめき」が生まれるような交流の場を設ける

④定例会: 2～3ヶ月に1度開催

この「YCE福岡」に定期的に参加し、先輩や同年代の若手技術士との交流から刺激を受けて、日々の仕事にも活力が生まれたように思います。社外の人たちとの交流は、社内だけでは得られない発見がありました。今振り返ると素晴らしい財産となっています。その時の出会いが、現在も続いています。現在は、新型コロナの影響で活動が制限されていますが、「シニアネットワーク」として継続されています。皆年齢を重ねましたが、今でも元気に活動をされています。

3. 技術士事務所の開設

建設会社時代の経験等を活かして、社会に少しでも貢献できないかと3月末に技術士の個人事務所を開設しました。開設に当り、新たな発見も数多くありました。「開設届」から始まり、帳簿の整理など未知の事が多く、正に手探り状態でのスタートでした。中でも一番の難関は、パソコン環境の整備でした。会社員時代は、サポート部門に聞けば直ぐに解決してくれましたが、個人となると全て自分で行わなければなりません。自分で調べて、それでもわからない場合は、知見のある人に確認するなどして少しずつ前に進めています。会社員時代に人に頼らず、もう少し踏み込んでスキルを身に付けておけばと感じています。

4. おわりに

私の個人としての技術士活動は始まったばかりで、どのようになっていくのかわかりませんが、今は今後の展開が楽しみになっていることは事実です。自分のできることを見つめ、業務を絞り込んで行きたいと考えています。

将来、個人事務所を開設する希望のある方は、今のうちにIT関係のスキルも身に付け、そして、今の段階から色々な会合に参加して、人脈を広げておくことも大事だと思っています。

所属: 原田技術士事務所

(E-mail: onkne47801@yahoo.co.jp)

Ⅱ

技術士的思考回路と 趣味の関係

ふくしま ひろみつ
福島 裕充
(建設・佐賀)



平成13年(2001年)3月、旧試験制度最後の年に技術士に合格させていただき、早20年が経過した。

思い起こせばあっという間に過ぎた感じがするが、今回は硬い話をやめて技術士的思考回路と趣味の関係について愚見を書くことにする。

技術士の回答論文を書くに及び、訓練として「なぜなぜ問答」という言葉がよく使われる。問題解決に関して課題と解決策・あとに行動が付いてくるわけだが、これが仕事に対し日常的に実践されていると、私生活の面、特に趣味の世界においてもその思考形態がついて回ることになる。少し茶番だが私の経験をとおして少し紹介したい。

1. ゴルフに関するなぜなぜ？

ゴルフ歴は40年にもなろうとしてるが、スコアは始めたころに戻りつつある。特にゴルフの醍醐味であるドライバーショットが飛ばなくなった。言い訳に年をとって体が硬くなって回らなくなったからだ！などと言う人がいるが、それを技術士的に解析すると、ドライバーの飛距離はスイングのヘッドスピード、打ち出し角度、道具の反発力、ボールの反発力、風等自然条件等が関係してくる。

課題としてスイングのヘッドスピードをいかに速くするかということあげると、若いころは今より少しは力があつたので、しゃにむにクラブを振り回して当たれば飛んだと回顧する人も多いと思う。では年を取ってからヘッドスピードを上げるにはどうすればいいか？解決策は、筋トレに励むもよし、ドライバーを軽いものに変えるもよし、インターネットの普及に伴い、ユーチューブ等でたくさんの講釈好きのプロが目白押しに飛距離アップ法などと公開しているのでご参考にされるのも良いと思う。いろんな解決策を試して自分の体に合った方法を決定すればよいのだから。

2. 釣りに関するなぜなぜ？

釣り歴はゴルフより長く60年になろうとしている。父親が釣りキチだったので、小さな頃からテボ(魚を入れる生簀)持ちとして、あちこち連れ回されたおかげで、クリークのフナ釣りから始まり、溪流釣り、海釣り(磯および船)等いろいろとやってき

た。一番面白いと思うのはやはり磯釣りだろうか。その中でも寒い季節のメジナ釣りは太公望の極みである。しかし、釣れない時にはさっぱり釣れない。ここで技術士は考える。なぜアタリが無いのかという課題に対し、魚はいるのか？餌は合っているのか？棚は合っているのか？潮の状態は？撒餌はちゃんと撒いているか？等を自問自答して釣果ができるように努力する。その結果が実っての一尾。この工程が釣りを面白くする要因であり、決して入れ食い状態の釣りばかりが面白いわけではないのである。年を取ってきて磯での釣りは厳しくなってきた。(夜釣りは危ない)そろそろ、防波堤釣り師に変身する時期かとも思う。

3. オーディオに関するなぜなぜ？

オーディオ歴は高校に入学してからなので50年になる。これまでいろんなオーディオ機器を揃えては人に売り払ったりして、ひたすら良い音を聴くための努力をしてきたつもりである。自作のアンプも6個くらい作ったが今は一つも残っていない。私の課題はできるだけ原音に近い音の再生ができるオーディオシステムの構築にあるのだが、その条件としてできるだけ安価であることを信条としている。お金を掛ければ当然良い音が出る確率が高い。そういう高価なシステムが欲しい人は博多駅近くのヨドバシカメラの2Fに行けば満足できるかもしれない。では安い予算で良い音がでるシステムを揃える方法は？と考えた一つ目が、オークションによる昔の名器の購入である。10年以上前の名器と言われたオーディオ機器が1/5くらいの値段で手に入る。当然保証には十分留意することが必要ではあるが、好きな方はぜひヤフオクをのぞいて欲しい。

二つ目は中華アンプ等の採用である。中国のIT技術の進歩は目を見張るものがあり、ここ数年でのオーディオ機器の性能向上は世界一と私は思う。しかも安い。アンプなどは5,000円くらいの中中華アンプが10万位する国産アンプと変わらない音を出す。ぜひ一度試されてはいかがだろうか。ちなみに私は近年、中華アンプを使ったPCオーディオに傾注して新たな音の世界を堪能している。

4. その他の趣味に関するなぜなぜ？

上記3つの他に「盆栽」「ランチュウ飼育」「写真」「邦楽」「LB卓球」など色々やっているが、どれも中途半端な状態。しかし、それぞれの持つ課題に対し「なぜなぜ問答」を繰り返しながら少しでも上を目指して頑張っている昨今である。

所属：西日本総合コンサルタント株式会社
(E-mail: fukusima@nisicon.co.jp)

非常勤講師 雑感

倫理委員・広報委員 いさみ ひでただ
勇 秀忠
(建設・熊本)



1. はじめに

技術士だより・九州127号の声の広場に倫理のむずかしさを少し述べさせていただいた。6月から熊本高等専門学校八代キャンパスでの専攻科（必須）の技術者倫理講義が始まる。

ここで少し雑感として以下に述べたいと思う。

2. 雑 感

突然だがギリシャの哲学者ソクラテスが獄中で自らの死を前にして親友に語った言葉がある。「人間が大切にしなければならないのは、ただ生きるということではなく、よく生きるということだと」また、カントは「幸福を望まない人間はいない」幸福への欲求が人間性の事実であることを認めつつ「よく生きる」ことだけを純粋に、幸福と切り離して追求すべきだとも言っている。

哲学者ではないし、恥ずかしながら熊本県教育委員会発刊の道德教育用郷土資料「熊本の心」小学校5・6年生、中学校の冊子を拝読した。そして、生涯学習の基本は何か。と考えたときの出発点は幼少期の道德ではないかと思った。学びとは人が「人間らしく生きる」ことを学ぶことであり、生きる力の人間の基礎的な資質の育成に繋がるもの考える。ひとり一人が能動的にかつ主体的に取り組んでこそ時代の変化に対応できる生起が生まれると考える。

人の人間性をかたるとき、生得説（脳の中に元から備わっていると考える考え方）と環境説（人間の発達には生まれた後の環境（経験や学習）によって決まると考える考え方）いわゆる生まれか育ちかである。これらに関する意見や考え方も様々であるが、私は二者択一で人間性が決まるのではなく両者のかかわりの中で人は成長するものと思う。

そうなると学校教育が目指す「生きる力」をどう育むかが重要になる。戦前・戦後の道德教育論争はさて置き、徳の育成を中心に、知や体を育むことが重要となる。現代のグローバル化、世代間共生、自然との共生、ダイバーシティという多様性を認め合う社会であり、価値志向の生き方が求められる。

ただ、注意すべきは道德科だけで人間性の資質・

能力が発展・向上するものではない。持続可能な開発、多文化共生、情報化社会など現代社会には答えが見えない課題が山積している。知識基盤社会を支える情報通信技術（ITC）や人工知能（AI）の発展はこれからの我々の生活をさらに大きく変えていく要因でもある。SDG s（持続可能な開発目標）は17の目標で構成されている。これらも先に述べた多文化共生、公正で平和な社会などSDG sに重なり合うものである。

多様性の共存こそが道德の歴史でもある。「どのような人になりたいか」「人生をどう生きるか」など、生きるへの問いを担ってきたのが倫理学・道德哲学であろう。静岡県では「有徳な人づくり」を推進している。価値の理解が主ではなく、「どう生きるか」というそれぞれの生き方の問いを考えることが大切ではないだろうか。

善き生や人生の幸福の答えは様々であり、それらを自らが多様な立場で直面し経験することで結論を導くことへのプロセスを豊かにしてくれる筈である。

そこで倫理を考えたとき、倫理綱領や要綱など企業や団体等が作成する中で、その根幹（ベース）は道德的な善悪の判断の基準がなければ、倫理綱領などへ到達しないのではないかという思いである。よって、Well being は人間の個として、さらには社会（団体など）の幸福へとつながらなくてはならないと思う。

最後に、人間性を育むのにふさわしいのは学校だけではない。仕事を中心とした社会にこそ折れない心ややり抜く力が身についていくことで、それぞれが少しずつ成長して行くものであると確信する。

3. おわりに

人間は生まれた以上、いつかは命の終わりが来る。それが宿命であるがこれまでの人生の省察は必要でもあるが、常に自らが成長したいという思いを抱いて日々を大切に前向きに進むことで新たな自らの成長に繋がると思うことから、これからの人生を学生さん方やすべての社員、そして日々の生活する中の多くの人々との繋がりを自らの成長の糧として進まなくてははいけないと考える。

それがこの世に生まれてきた一人の人間の務めではないか。偉い人そうでない人、金持ちの人そうでない人さまざまな人間がいるが最後は同じ終わりを迎えるのだから。

所属：株式会社興和測量設計
(E-mail: isami-h@kowa-kk.co.jp)

東日本大震災の教訓と 今後の防災・減災

みやなが やす お
宮永 安雄
(建設・大分)



1. はじめに

東日本大震災は、東北地方太平洋沖を震源とするマグニチュード9.0の巨大地震及び大津波により2万人もの犠牲者を出した。沿岸部は壊滅状態となり、さらに、原子力発電所事故の発生なども加わり、かつて例をみないほど広域にわたり未曾有の被害をもたらした。震災から10年の節目を迎えた今、得られた教訓を今後の防災・減災にどう活かしていくべきか、ささやかな私見を述べたい。

2. 防災対策の進展に伴う新たなリスク

今回の東日本大震災の規模は、これまでの科学技術に基づいた想定をはるかに超えていた。この震災以前は、過去400年間の地震・津波に対応した防災活動を行ってきたが、被害想定と実際の被害との乖離が大きく、多くの命が失われてしまった。

釜石市では、この被害想定に基づいた津波ハザードマップを住民に配布していたが、安全とされていた浸水想定区域の外側の人が多く亡くなっている。

このことについて、片田敏孝は著書「人が死なない防災」の中で「想定にとられすぎた」ことを指摘し、「東日本大震災で顕在化したのは、(中略)防災が進むことによって社会と人間の脆弱性が増し、住民を災害過保護ともいうべき状態にしてしまう問題にほかなりません。」と述べている。私は、多くの人が亡くなった上記の要因の一つに、行政と住民との防災コミュニケーションの不足があったと思っている。行政は、浸水想定区域外も絶対安全ではないこと、想定外の事象も起こり得ることを住民に周知徹底し、過度に想定にとられることがないように啓発に努めるべきと考える。

3. 被害想定について思うこと

震災以前は、過去400年間の地震・津波を想定していたということであるが、古地震に関する研究によれば、古い地層から今回の津波に匹敵する大津波が過去に発生していたことが指摘されていた。西暦869年に陸奥国東方の海底を震源として発生したとされる貞観地震もその一つである。太平洋沖を震源とする巨大海溝型地震が大規模な津波を起こした可能性が指摘されていた。しかし、この知見が東日本

大震災に対する事前の備えに活かされることはなかった。津波想定は、防災・減災対策を策定する際の最重要事項であり、古地震に関する知見が活かされなかったことは残念でならない。

今後の津波(発生頻度は低いものの、発生すれば甚大な被害をもたらす最大クラスの「レベル2」津波)想定は、地質学、堆積学、歴史学、考古学など他分野の知見も取り入れ、総合的に検討して決定すべきと考える。

4. 防災(ハード対策)の限界

被災地の沿岸部には、防潮堤などの海岸保全施設が整備されていたが、これらの施設はマグニチュード8程度の地震による津波を対象にして設計されており、今回のような超巨大地震(同9程度)に対しては十分な耐力を有していなかったことから、津波により破壊されてしまった。

宮古市田老地区では、「田老万里の長城」と呼ばれ地域の象徴的施設であった巨大防潮堤も今回の津波により破壊され、ハード整備による防災には限界があることを思い知らされることとなった。

今回の津波によって多くの人が亡くなった場所では、防潮堤があることで安心し、防潮堤の力を過信して逃げなかったことで津波に巻き込まれた人がたくさんいたと言われている。このことについて私は、防災施設による対策には限界があることが正しく住民に伝わっていなかったのではないかと考えている。

行政は、防潮堤、堤防などの構造物は設計外力を越えたら破堤することを住民に周知し、「防潮堤があるから安全」という誤ったメッセージを与えることがないように啓発に努めるべきと考える。

5. おわりに

東北地方太平洋沖地震津波合同調査グループの震災後の調査で、ハードウェア防災が減災に貢献していたことが明らかにされた。防潮堤、堤防などハード施設の整備が不十分であれば被害が甚大になることは明白である。ハードとソフトは車の両輪。どちらかに偏った対策では防災・減災はうまく機能しない。今後の防災・減災対策は、ハードとソフトの守備範囲を明確にしたうえで、ハード(防災)対策の外側にソフト(減災)対策を配置する「多重防御」の手法を取り入れるべきと考える。その際、関係機関と住民との防災コミュニケーションの醸成が必須であることを申し添えておきたい。

所属：九豊コンサルタント株式会社
(E-mail: miyanaga@kyuhou.co.jp)

技術士とは

そのだ としかつ
園田 敏勝
(電気電子・大分)



1. はじめに

この度、大分県支部事務局の佐藤先生から「独立技術士の声」というコーナーへの執筆依頼が届いた。

私は今77歳、自分のこれからの寿命を考えると絶好の機会と捉え、依頼をお受けすることにした。

さて、表題を何にするかと悩んだ末「技術士とは」とした。つまり、日頃技術士とは一体何だろうと思っていたことと疑問に思っていること等を纏めることで、私の捉えている技術士像がより明確になるのかも知れないと思ったからである。

2. 受験の動機と技術士試験

一般社団法人電気学会のB部門（電力・エネルギー部門誌）に掲載される論文の最後部には、論文の著者が紹介されている。著者の経歴を見ていると特に日立電器製作所とJR職員の多くに「技術士」という表記があるのに気付き、技術士の存在を知った。

技術士とは、一体何だろうと思い、1996(H8)年3月3日、当時住んでいた北九州市の電話帳から技術士の方に「技術士とは何ですか」と聞いた。すると丁度いい、3月9日(土)に戸畑で技術士の説明会があるので是非いらっしゃいと誘われた。

説明会場で私は、「技術士の資格を得て何の意味があるのですか」と聞くと参加者の多くが驚いていた。

早速、技術士試験の過去問題を調べてびっくりした。出題内容は、極めて広く漠然としており、容易に答え(解)を導き出すのは無理と思った。ただ解は、一意に定まるのではなく、回答者の解釈によっては、どの様にでも展開可能と感じた。

技術士試験の問題を見て、受験対策は、朝夕に出来るものではなく、長年の努力と継続が必要と思い、当面の受験は無理と判断した。

それでも、一度は受験を経験しないと後悔すると思い、52歳の1996(H8)年8月29日、二次試験を受けてみた。そして、11月30日、東京で二次試験の口頭試験を受けた。口頭試験では、試験官の一人の方と「磁界センサの最小検出分解能」に関して、激論となった。後日、北九州の技術士の先輩からは、面接で試験官と絶対に口論してはいけませんよと諭さ

れ、笑ってしまった。それでも、1997(H9)年2月7日付の二次試験合格証が届いた。

私は、当時勤務していた九州工業大学で技術士登録申請を行い1997(H9)年3月24日付の技術士登録証が届いた。

その後私は、1999(H11)年4月、飯塚にある近畿大学九州工学部（現産業理工学部）に転職した。

そのころ、学内ではJABEE（ジャビー）が、連日のように話題となっていた。JABEEの設立理念は、「日本でも国際的に通用する技術者を育成する」であり、技術士制度と密接に繋がっていることを知った。つまり、JABEE認定プログラムの修了生は、技術士の第一次試験が免除されるのである。

3. JABEEで何を学んだか

JABEEでは、PDCAサイクルとエビデンス(evidence)がキーワードだと思っていた。

PDCAサイクルを自分の技術士活動の一部、研究面に適用すると「そうは簡単には行かない」が結論である。先ず、電気の分野で多用されている材料（透磁率、誘電率、伝導率）の物理的性質は、使用条件によってその姿を変えるので、最も大切なPlan（計画）の詳細がどうしても立たないのである。それ故、未知の研究分野において、PDCAサイクルをどの様に活かせば良いかが今後の課題となっている。

4. 技術士活動とまとめ

九工大在職中は、北九州の技術士の先生方に種々のご指導と助言を頂き、感謝している。

現在は、大分県支部の例会に時々出席する程度で、積極的な活動は行っていない。一方、近畿大学と九工大の技術士会には、可能な限り出かけている。

技術士であることの最大の意味は、社会貢献の他、(1)先ず、出かける場所がある、(2)技術士の集まりの場でメンバの行う集大成とも言える活動報告（新たに得た知識・知見・研究成果等）を無料で聞くことが出来る、(3)なんと言っても会の終了後に開催される「飲み会」では、メンバの有する研究観・世界観・人生観までを聞くことが出来ることである。そして、私が、日頃思っていることや疑問に対する助言と御指導を頂けるのが実に有難い。

最後に「技術士とは」何かと問われれば、科学技術発展への寄与は当然として、私は人類の文化貢献への使命を有する人材ではないかなと捉えている。

所属：園田電気電子技術士事務所
(E-mail: sonoda@sonoda-ceeo.jp)

修習技術者の声

技術士取得に向けて

おおき しんたろう
大城 進太郎
(建設(修習)・長崎)



私は長崎県内の建設コンサルタント会社に勤務し、調査設計業務に携わって8年が経過しました。現在の会社に入社する前は県外の建設コンサルタント会社に4年間勤め、当時は新設橋梁の設計が中心であったのに対し、現在は新設橋梁に加えて既設橋梁の点検・補修設計まで橋梁に関する業務に幅広く携わっております。地域コンサルタントとして技術者に求められる知識・技術は非常に幅広く、専門性と総合性の両立に苦慮しておりますが、それと同時に地元の社会インフラに貢献できる喜びを日々感じながら、業務に取り組んでおります。

技術士は建設コンサルタント業に携わる技術者にとって、必要不可欠な資格であると認識はしていましたが、私にとっては「高嶺の花」といった遠い存在でした。気が付けば、二次試験の受験資格を得ており、慌てて挑戦はしてみるものの、その度に基礎

知識及び実務経験の不足を痛感させられる結果でした。最近では同年代での資格取得者も増えてきており、今年こそはという焦りも感じています。資格試験に向けた取り組みとして、社内で開催されている勉強会に参加し、受験者同士での情報交換を行っており、先輩技術士から受験に対する様々なアドバイスも受けながら、二次試験に向けて計画的に勉強を行っています。社内にも受験する若手技術者が多く、お互いの刺激もあり、勉強に励むことができています。

資格取得を目指し始めてからは、実務においても工法・設計手法の基礎となる工学から改めて復習し、より正確で詳しい知識・理解を深めるという意識が芽生えました。前例・類似をなぞる設計ではなく、現場条件に適した最善の設計となるように工夫を行うようになり、技術士取得への取り組みを通じて自身の意識の変化を感じております。

日々の業務をこなしながら勉強することは決して楽なことではありませんが、同じ状況下で取得されてきた先輩方の背中を思い浮かべながら、また近い将来に肩を並べて仕事ができる日を目指して、技術士取得に向けて取り組んでいきたいと思っています。

所属：扇精光コンサルタンツ株式会社
(E-mail: s.ooki@ougis.co.jp)

より良い未来のために

うらがみ きみたか
浦上 公貴
(建設(修習)・熊本)



私は、プレキャストコンクリート製品メーカーに勤めており、品質管理業務に携わっています。コンクリート業界においては(公社)日本コンクリート工学会(JCI)認定資格のコンクリート技士・主任技士・診断士が定番資格で、技術者として技術力向上のために主任技士と診断士を取得し、業務を通じて社会資本整備に微力ながら活かしていると思っております。

また、技術士という資格の認識はあまりなかったのですが、調べていくうちに日本の最高位の資格でその高い技術力を持ち社会に貢献できることが分かり資格を取得したいと強く思うようになりました。

私が携わるプレキャストコンクリート製品は、現場にて設置し構造物を構築するもの、現場で部材として構造物の一部となるものなど、小型から大型の

ものまで多種多様にあります。その中でコンクリートに求められる品質並びに耐久性は高度なものになってきており、特に厳しい環境下においての高い耐久性が求められる傾向が顕著であります。さらには、コンクリート業界においても技術革新が進んでおり、構造物の長寿命化を目的としたひび割れを自己治癒するコンクリート、二酸化炭素を吸収するコンクリート等の地球温暖化の原因と言われている二酸化炭素の排出を抑制する工法等々、それらの技術は多岐にわたっております。それらのような技術および新技術を理解し活用できる高い知識および技術力を習得し社会資本整備に貢献できるように日々精進を積み重ねていきたいと思っています。

最後に、技術士という資格を通じて、社会全体を俯瞰して見ることの重要性を認識し、今自分がどのように社会に貢献できるのかを考えるようになりました。これからは、一社会人としての責務を全し、信頼を得られる技術者となれるよう技術士の資格取得を目指しながら後世に安心安全で長期供用可能な社会資本の整備に努めていきたいと思っています。

所属：不二高圧コンクリート株式会社
(E-mail: uragami@fuji-dream.co.jp)

私のチャレンジ

「真の竹取の翁」 を目指して

まえだ やすのり
前田 安徳
(建設・宮崎)



1. はじめに

「今は昔竹取の翁というものありけり。野山にまじりて、竹を取りつ々、萬の事につかひけり。」

これは、日本最古の物語といわれ、平安時代の初期に成立した「竹取物語」の冒頭です。だれもが知る「かぐや姫」として、子どもの頃から親しんできたファンタジーいっぱいの竹林のお話です。

この物語では、色々な不思議や美しい姫に貴族たちがこぞって求婚する話などが印象深いのですが、当時の生活や習慣も描かれ、竹が様々なところで活用されていたことが覗えます。

2. 我が家の「竹やぶ」

我が家にも裏山に「竹」があります。現在、約1000平方メートルほどにはびこる斜面の「竹やぶ」です。

20年ほど前までは父が元気で、定期的に管理し生活資材などにも使っていたので、美しい竹林とはいかないまでも500平方メートル程度の区域に管理された竹林でした。

その後、管理が行き届かなくなって約10年間で、現在約2倍に膨張した「放置竹林」になりました。

台風など暴風雨の後にはおびただしい倒竹、小枝の残骸や落ち葉で我が家は覆い尽くされ、雨樋・排水溝は詰まり、片付けには多大な時間と労力を要する悲惨な状況になるようになったのです。

3. 「にわか竹取の翁」

約10年前、「どげんかせんといかん」と私は立ち上がりました。「にわか竹取の翁」の誕生です。

インターネットで、竹を駆除する方法を調べると、少しの予算で出来そうな2つの方法がありました。

①連年皆伐式

- ・毎年同じタイミングで竹を全て伐採して、徐々に弱らせる

- ・弱り切って草しか生えない状態になったら、薬剤を少し使うことで、根からきれいに取り除く

②除草剤（グリホサート系）を幹に注入する方法

- ・幹の地上30～100cmの高さ（節から2～3cm下）に穴を開ける

- ・穴から除草剤（10～20ml）を原液のまま注入

- ・ガムテープで穴を防ぐ
- ・半年から1年で完全に枯れるので除去する

我が家の竹やぶの地形や生えている竹の本数（大小合せて約5千本）と私の体力を考え、①は却下し、②の除草剤注入方法を試すことにしました。

（試行の概要）

- ・必要な道具や材料を調達（充電式ドリル・つる首スポイト・ガムテープ・除草剤・その他）
- ・適期とされる夏の炎天下時に作業（延7日間）
- ・除草剤を竹やぶ外縁部の幅2m内に生える直径5cm以上の竹約200本に注入
- ・5cm未満の竹や笹類は鋸と刈払機で伐採

その結果、半年ほど経つと目論見以上に幅2m区域の竹は枯れ、撤去処分することが出来ました。

竹の一掃しか眼中になかった「にわか竹取の翁」の私は、半年で「過酷な作業」は忘れ、案外「竹は組み易し」と思ったのが大きな間違いでした。

4. 「真の竹取の翁」へ

あれから10年、私は竹はいつでも除去できると思い、一度も本格的な駆除を行いませんでした。そのため、「竹やぶ」は拡大の一途を辿り、現在危機的な状態になっています。

そこで今回はこれまでの教訓を踏まえ、単に竹を駆除するのではなく「竹やぶ」を持続可能な「竹林」に整備することとし、私の理想とする「真の竹取の翁」を目指すことにしました。

前は唯々竹を取り除くことが目的だったのですが、今回は管理のための竹の駆除を行うと共に、「かぐや姫」が現れそうな「美しい竹林」を目指して整備し、さらに竹も活用したいと考えています。

つまり「一粒で二度おいしい」みたいに、アウトカムを増やし、楽しみたいと思います。

竹の駆除は除草剤注入法に加えて、近年提唱されている「1メートル切り法」を実施してみます。また、この竹を用いて無煙炭化器で竹炭を作ったり、簡単な竹細工にも挑戦してみたいと思っています。

なお、1メートル切り法とは冬（12～2月）に竹を1mの高さで切ると、根が徐々に弱って枯れるというのですが、詳細の説明は割愛します。

5. おわりに

竹林は、竹の間隔を1mほどに整備するととっても美しく輝いて見えるそうです。すでに公認の「翁」である私ですが、「竹取の」冠をいただけるようにチャレンジを続けたいと思います。

所属：玉野総合コンサルタント株式会社
(E-mail: maeda-yn@tamano.co.jp)

地域の話題

佐 賀

沖ノ島参りと 子供浮立

こ が ひろふみ
古賀 浩史
(建設・佐賀)



九州の有明海、佐賀県太良町の沖合5kmに、『沖ノ島』と呼ばれる岩礁があります。沖ノ島という名称の島は全国に数多く存在しますが、有明海の沖ノ島は満潮時には沈んでしまう小さな岩礁で、沖ノ島瀬灯台が設置されています。この島には様々な言い伝えが残されており、私が住む地域では雨乞いの願をかけた『おしまさん』の伝説があります。旧暦6月19日に沖ノ島にあるおしまさんの石像に浮立を奉納し、五穀豊穡を祈願する『沖ノ島参り』を現在も行っています。有明海沿岸各地で同様の行事が開催されており、満潮時の沖ノ島周辺を周回、船上で浮立を奉納する（笛・鉦・太鼓を叩く）ものもあるようです。私が住む地域では、満潮時に出航し数時間かけて沖ノ島に向かい、干潮時に海上に姿を見せた沖ノ島に上陸し、浮立を奉納します。提灯で飾った数十隻の船が、浮立を響かせながら夜明けの有明

海を走る姿は、爽快のひとつことです。地元重鎮の話では、60～70年ほど前は動力のない大型の台船に数十人が乗り、引き潮に合わせて沖ノ島に流れていったということで、その名残で一昼夜かけての行事となっているようです。

沖ノ島での浮立の奉納だけでなく、企業や老人ホームへの訪問も行っています。また、伝統芸能の継承と地域活性化のために、地元の小学生にも太鼓を教えて子供浮立を実施しています。子供浮立は、地元の夏祭りや神社のおくんち（秋祭り）で奉納します。地域の年配の方々が笑顔で見物してくれ、中には飛び入りで子供に混じって太鼓を叩く人もいて、やっていて良かったと感じる瞬間です。将来この子供達が船に乗って沖ノ島参りをしてくれる日がくればいいなと願っています。今後もこのような活動を通じて地域と関わっていきたいと考えています。



地元テレビで紹介されましたので御覧ください。
<https://www.youtube.com/watch?v=m1ZGI-KBKvY>

所属：株式会社 親和テクノ
(E-mail: koga@shinwa-techno.co.jp)

熊本県建設技術 センターとの締結

倫理委員・広報委員 いさみ ひでただ
勇 秀忠
(建設・熊本)

前号(127号)のミニ特集「コンクリート出前講座を学校へ」投稿の折り、(一財)熊本県建設技術センターと研修事業の講義協力に関する協定書締結に触れました。

(一社)熊本県コンクリート診断士会は、社会資本整備が新規構造物から維持管理へと転換期を迎える中、情報収集やコンクリート技術講習会などを実施し、会員の技術を高め、熊本県内で初めて第三者機関として構造物診断などの支援業務を行ってまいります。県建設技術センターで平成13年から始まったコンクリート品質管理講座(受注者・発注者対象)の2講座を担う団体として協力している。

私の思いは「締結によって、今後講習会の講師を担う診断士の責任と自覚、さらには担当診断士が所属する法人に対して、その意義が明確となり、所属法人のオーナーが講義を担当する診断士への理解と

サポートなどが増していく」との思いが強くあった。締結を機に期待に添えるように誠心誠意注力したいと決意を述べました。

一方、宮部理事長は「今回の締結で講義内容のさらなる質の向上、そして講義を通じて土木技術者の育成にも大きく寄与すると期待の言葉を頂き、日々忙しい中の講師の依頼になると思うが宜しくお願いする」と協力を求められた。

私は技術士という資格の看板を背負っていて、熊本県コンクリート診断士会という団体の理事長職を努めている最大の理由は、一技術者として自己省察し、前に進んでいく姿勢こそが公益に資する一つの方法との思いからである。失礼ながら締結写真を掲載させていただきます。



協定書締結
(写真右)
宮部理事長

所属：株式会社興和測量設計
(E-mail: isami-h@kowa-kk.co.jp)

ミニ特集 『趣味・特技、社会貢献、心に残る言葉・出会いなど』

心に残る言葉を書に

たなまち しゅういち
棚町 修一

(建設、総合技術監理・福岡)



言葉は言霊と言われるように、不思議な力を持っているもので、その時々状況に応じて勇気づけられたり、癒されたりします。そのような言葉との出会いは嬉しいもので、以下に記す言葉は、特に心に残っており「書」にしたため座右の銘として大切にしています。

①「還 人間万事、塞翁が馬」

「還」には振り返ってよく考えると言う意味が、「人間万事、塞翁が馬」には次のような意味があります。

「幸せが不幸に、不幸が幸せにいつ転じるかわからないのだから、安易に喜んだり、悲しんだりすべきではない」という意味です。これまでの人生を振り返ると、言い当て



ているようで、今後も心の支えにしたい言葉です。

②「見義不為無勇也」

「ぎをみてせざるはゆうなきなり」と読み、論語に出てくる言葉で、「人の道として当然行すべきことと知りながらこれを実行しないのは勇気が無いと言うものである。」という意味です。



この言葉は、小学生のころ、母から叱られた時に言われた言葉で、不思議とずっと頭から離れず、社会人になって言葉の意味、出典を知りました。

③「この道よりわれを生かす道なし、この道を歩く」

これは、武者小路実篤の「この道より」という詩の言葉です。仕事に悩み、自分の進む道さえも見失いつつあるときに、この言葉を噛みしめるとふと我に返り、もう少し頑張ってみようと、背中を押してくれた言葉です。



所属：株式会社アーバンデザインコンサルタント
(E-mail: tanamachi@udc-ap.co.jp)

インターンシップ活動

いのくち しゅうじ
井ノ口 章二

(機械・北九州)



私は二年前に退職し、現在、北九州地域の中小企業の技術支援をするNPO法人で地場の大学、高専の学生に地場企業の工場実習を斡旋する事業に参加しています。これは、北九州の活性化のために市民・団体・行政の力を集めた民間組織の委託を受けて、インターンシップの学生受入れ企業の開拓とコーディネート業務を行うものです。学生にインターンシップを通じて地域のものづくり企業を良く理解してもらい、将来それが地場企業への就職につながって地域の新たな力の源となることを期待しています。

私は、在職時、新人・中堅社員の教育や大学・高専のインターンシップ受入を数年間担当していました。若い人との触れ合いが楽しく、ときには期待した答えと違う斬新な発想に出会うこともありました。

遠い昔、私も大学3年の夏休みに電機メーカーのインターンシップで、電気機関車の製図や構造解析をやらせてもらったことがあり、それが就職につながりました。そのため、このようなインターンシップは有意義なものだと感じていました。

退職後の活動について考え始めたころ、ある人の紹介で前記のような活動をしているNPOがあることを知りました。

実際に活動に参加してみて、小規模ながら堅実経営でインターンシップにも前向きな企業が多くあることを知りました。実習の初日や最終日に同席させてもらい、経営者や研修担当の方の話を聞くと、学生への熱い思いが伝わってきます。学生も、失敗や成功の経験をまじえた成果発表では内容をよくまとめており、本人の成長につながっているのではないかと感じます。

昨年度はコロナ禍で、感染への警戒や業績の悪化のため、インターンシップ活動も低調でしたが、今年度は上向きになってきています。今後も引き続きこの活動を行っていきたいと考えています。

所属：NPO法人 北九州テクノサポート
(E-mail: inokuchi@kitaqts.org)

コロナ禍で 見つけた趣味

やまなか ゆうじろう
山中 雄二郎
(建設・佐賀)



昨年より大流行している新型コロナウイルスの影響にて日々の生活や仕事など、様々な分野にて大きな変化を感じながら毎日を過ごしています。

日々の生活については、ステイホームが主なキーワードとなり、仕事についても弊社ではリモートワークを行うなど、従来のやり方から大きく変化しました。

そのような状況のなか、いかに家で楽しく過ごすかを考えて、以前より興味のあった【ベランピング】を始めました。【ベランピング】とは「ベランダ」と「グランピング」を組み合わせた造語です。自宅のベランダで手軽にアウトドア気分を味わえるとのことと、最近のコロナ禍で人気が高くなってきております。

我が家では、幸いにも小さな庭がありますので、ご近所さんにも迷惑を掛けないように、一人で細々とやっております。

私は何事にも形から入る方なので、まずは、キャンプショップやホームセンター、100円均一などに行き、道具を買いました。私のベランピングは一人で行うこととしておりますので、道具もできるだけ小さく、コンパクトなものに拘って買い集めました。

バーベキューコンロも折りたたむとB6サイズになるコンパクトなものです。

先日のゴールデンウィークは、家庭サービスも顧みず、一人黙々と肉や野菜、キノコ類を焼いたり、ビールを飲んだり、ベランピングに励んでおりました。

元より飽きっぽく、趣味もそんなに無い人間でしたが、準備や後片付けの手間も掛らず、美味しい肉やビールを味わえる自分なりのベランピングは続けていこうと思います。

所属：株式会社 九州構造設計
(E-mail : y-yamanaka@kyukoh.co.jp)

親子で楽しむ サイクリング

まつだ あつし
松田 敦
(建設・大分)



長女の高校入学を機に福岡から日田に引っ越し、春から家族4人揃っての生活が始まった。週末毎の単身赴任先への移動に費やす時間がなくなり、趣味の自転車に乗る時間もようやく確保できるようになった。これまでは、家族を差し置いて私一人で楽しむ趣味としての自転車だったが、この春小学6年生になった息子に私の自転車に乗せてみたところ、すんなり乗りこなしたので親子で楽しむ趣味となった。身長は10センチ以上違うのに、股下の寸法はほとんど変わらないという謎は理解できないが、週末の度に親子でサイクリングに出掛けている。4月の初め頃はおっかなびっくり乗っていた息子も、5月の連休を過ぎた頃には峠道の下りでもそれなりのスピードで走れるようになり、逆に登坂路ではこちらが置いて行かれそうになる始末である。小学生ながら頼もしい限りだ。

日田の観光地でもある豆田町から中津方面へ「日

田往還」という昔の街道筋が通っており、国道に比べて圧倒的に交通量が少なく快適なことから、もっぱらこのルートが定番コースとなっている。途中、中津との市境に300m程度の峠越えもあり、それなりに走り応えのあるルートでもある。このルートは、中津まで続く廃線跡を整備したメイプル耶馬サイクリングロードとも繋がっており、バリエーションルートとして英彦山方面へ向かうことも可能であり、自然豊かな環境で快適なサイクリングを楽しむことができる。

5月の連休中には、親子で中津の海まで行ってみるチャレンジを実行し、息子は途中かなり疲れた様子だったが、随時休憩を挟みつつ65kmのサイクリングを楽しんだ。その後も、天気の良い週末は必ず二人で出掛けており、少しずつ距離も延びスキルも向上しつつあるので、寄り道先を含めたルート設定への熱も高まる次第である。これまで一人で黙々と走っていた事を考えると、親子でのんびり色んなことを話しながら楽しめることは、とても貴重な時間のようにも感じている。息子がいつまで付き合ってくれるかわからないが、できるだけ続けていきたいと考えている。

(E-mail : mazda787b.1991.06.23@gmail.com)

コロナ禍で思うこと

よしむら けんいちろう
吉村 賢一郎
(環境・長崎)



私は地方公務員を定年退職して早や10年を過ぎ、年齢も70歳を超えました。現職時代の38年間の大半は環境監視業務でした。環境分野は大きく4つの部門に分かれ、①公害防止・地域環境保全②廃棄物適正処理・資源リサイクル③気候変動・地球環境保全④自然環境・生態系保全と広範囲にわたります。

私は主に大気や水質の環境測定を担当しましたが、環境分野は多様で奥が深く、正に持続可能な社会構築を支える技術分野です。私は定年退職後の63歳から7年もの歳月をかけて、やっと技術士（環境部門）の資格を取得しましたが、その過程は過酷の極みでした。60歳を過ぎて知力・気力・体力の低下はもとより、実母の介護、地元自治会・老人会のボランティア活動の合間での勉強を強いられた上に、その間3回にわたる癌の手術を経験する中での試練でした。二次試験も数回の苦杯を舐めましたが、最後は気力と執念で合格したようなものです。

技術士資格への挑戦は、私の第二の人生の良い経験となりました。

ところで、未だに地球規模でコロナ禍が猛威を振るっています。また、本来は山奥で生息しているはずの猪や熊などが、里地里山の荒廃により都会へ出没し人間や農産物へ被害を及ぼす事態が頻発しており、乱開発による生態系バランスの崩壊が指摘されています。人類は昭和30年代前半から、生活利便性のためとはいえ、PCB、農薬やフロンなど様々な化学物質で地球を汚してきました。また近年は温室効果ガスにより温暖化が進行し、先般国連で採択されたパリ協定の目標達成は現状では困難な状況です。一世紀経たずして地球を汚してしまった『人類へのしっぺ返し』として、未知のコロナ禍による人類への天罰・警告のような気がしてなりません……。今こそ、改めて身近な環境や生活改善に目を向ける必要性を痛感します。私たちでも直ちにに取り組める喫緊の環境課題が二つあります。『食品ロス削減』と『廃プラスチック削減』で、いずれも持続可能な社会形成に必要な省資源対策です。私も環境技術士として、地域ボランティア活動を通してこれらの課題に取り組みたいですと思っています。

所属：吉村技術士事務所
(E-mail: k_yoshimura1@yahoo.co.jp)

私の大切な出会い

よしもと りゅういち
吉本 龍一
(建設・長崎)



鋼橋関係という堅い仕事を行っている私ですが、世の中に夢を与える仕事をされているある造形作家（先生）との出会いについて紹介いたします。先生は、風・水を利用するモニュメントを創造される造形作家として世界的に著名な方であり、私が面識を得たのは、当社の創業者の追悼モニュメントを先生に依頼したときに始まります。モニュメントの建設場所は、当社の近くの高さが200mくらいの山の頂上にあり、風のとても強い所です。

先生は、お元気ですかと申しますと「まじめに遊んでいます」と返事をなさいます。先生の展示会にいったときのことで、後で感想を聞かれたとき、先生のお考えのイメージとおりの返事をしたときなど、柔和な顔で本当に魅力的な笑顔をなさいます。一方、仕事に対しては厳しいかたで、検査のおり、塗装の光沢を特に気にされて、いろいろな角度から

塗装の仕上がり具合を見て、光の反射具合にむらがあると決してOKを出されません。また、羽根など動く部分の回転の善し悪しも作品の出来栄に影響しますので回転速度など入念にチェックされます。先生は、発注者の注文モニュメントのコンセプトに見合うイメージのデザインを行い、小さな模型を作ってバランスを調整してデザイン図を作成されます。製作を依頼された会社は、製作図を作成して先生の許可をいただき製作することになります。私の担当したモニュメントは、先にお話した「星のなる木」と長野オリンピックモニュメント「太陽のおくりもの」でした。

一年ほど前の話ですが、約30年経過した当社で製作・架設したモニュメントが、台風で破損してしまいました。補修計画を行い、現場指導まで行いました。ベアリングを内部に挿入した構造は、完成したときの見栄えはすばらしいのですが、一旦壊れてしまうと復旧が難しいことを痛感した次第でした。先生とお知り合いになれていろいろ経験させていただく機会を得たことは、私の一生の財産として大事にしていきたいと思っています。今後いろいろな人との出会いを大切にしたいと考える毎日です。

所属：株式会社大島造船所
(E-mail: r-yoshimoto@ma.osy.co.jp)

iTECS技術全国 交流会発表

倫理委員・広報委員 いさみ ひでただ
勇 秀忠
(建設・熊本)

令和3年5月13日(木)に石川県金沢市において、iTECS技術交流会(北陸)がKKRホテル金沢にて開催された。私も「道路構造物の品質管理・維持管理への貢献を目指したiTECS技術の適用事例」(一般講演)の第2部で発表した。コロナ禍ではあったが会場参加者50名、リモート参加者約200名の参加者があった。

そもそもiTECS技術は、コンクリート表面を鋼球等で打撃し、発生した弾性波を測定することにより、コンクリートの内部の状況を非破壊で試験する技術である。これまで、国土交通省新設橋梁工事での強度試験に採用されている。また、多くの既設構造物の調査に適用できるなど、コンクリート構造物の品質管理や維持管理に適用されている。熊本県でも新設の橋梁上部工・下部工(橋長に関係なく)の強度測定に採用され、多くの県内自治体でも実施されて

いる状況だ。私が講演した内容は、以前「技術士だより・九州」や日本コンクリート工学会(JCI:2020全国大会(広島))に投稿したもので、演題「補修工事の品質管理の高度化を目指したiTECS技術の活用事例」として発表した。

要点は、玉名市が独自に取り組んでいる橋梁補修DIY(市役所職員による直営施工):第3回インフラメンテナンス大賞優秀賞受賞であり、(一社)熊本県コンクリート診断士会で実施した(第三者による施工品質の照査:Construction quality check by third parties)である。直営施工が専門業者と同等の品質を有していることをiTECS技術協会規定:試験03:コンクリート内部の欠陥探査法で示したことだ。

手前みそになるが、金沢工業大学の宮里心一教授の基調講演「北陸地方の社会インフラの維持管理」の中で、玉名市の自治体職員が自ら行う橋梁補修DIYに関して、その取り組みに対して、高い評価を頂いたことは少なからず、これからの人材不足、財政力不足、技術力不足における地方自治体の研究・検討する一つの課題でもある。

所属:株式会社興和測量設計
(E-mail: isami-h@kowa-kk.co.jp)

今も現役?

かい たかひこ
甲斐 隆彦
(建設・宮崎)



九州で唯一Jリーグのチームがなかった宮崎から、今季、J3にテゲバジャーロ宮崎が参戦した。

テゲバジャーロというのは、宮崎弁の「てげ」(すごい)にスペイン語の牛(Vaca:パカ)と鳥(Pajaro:パジャーロ)を組み合わせたもので、牛のように勇猛果敢に突進し、鳥のように空高く羽ばたき、サッカーを通じて宮崎を元気にしたいという思いが込められている。「宮崎牛」や「チキン南蛮」のように県民にとって身近で欠かせない存在を目指して是非頑張ってほしいと思っている。

サッカーの話題から始めたが、私は、中学校の時にサッカーに出会い、以来 高校、大学、社会人でも続け、現在、サッカー歴48年になる。

社会人では宮崎県庁サッカー部に所属し、今年の3月に定年退職となったが、退職後も所属可能ということで、現在も宮崎県庁サッカー部に籍を置いている。

還暦を迎えたおじさんがサッカー一部に残ってどうするのと思われそうだが、県庁サッカー部にはシニアチームがあり、そこで今後も活動が続けることとしている。

以前は30代の半ばぐらいになると若い世代についていけず、次第にサッカーから足が遠くなるものだったが、サッカー経験者の増加に伴い40歳以上のカテゴリーであるシニアができ、年をとってもサッカーを楽しむ人が増えてきている。

さらにシニアはO-50(オーバー50歳)、O-60、O-70というカテゴリーも設けられており、年齢に合わせて、無理なく楽しめるようになっている。とは言ったものの、やはり試合になると昔のイメージでプレーしてしまうので、皆さんケガとの戦いが尽きないようである。

私は2年前にO-60のチームから声がかかり、今は、県庁シニアと掛け持ちでサッカーを続けている。こちらのメンバは、民間企業や先生、警察官、自衛官など元の職種や経歴が多彩であり、年齢が70歳を越える方も多数おられる。皆さんサッカーが本当に好きなんだといつも感心するが、私も現役でいられるよう、これからも「体力維持」と「家族サービス」には、十分気をつけていきたいと思っている。

所属:株式会社 親協
(E-mail: t-kai@shinkyou-con.co.jp)

土木遺産シリーズ（24）

大分県の土木遺産紹介 貴重なトンネル群

くらはら りゅうじ
倉原 隆二

（建設、総合技術監理・大分）



1. はじめに

トンネルは道路、鉄道、水路などの社会インフラに欠かせず、身近で重要な構造物です。一方、トンネルは地中構造物であるため、橋梁やダム等と比べて視覚的なインパクトが弱いのは否めません。しかしながら、トンネルは地上の歴史的な構造物を遺構として残すことが可能です。（写真1：津久見市の水晶山鉱区から採掘した石灰石の選別場遺構）



（H8年建設時）



（R3年現在）

今回は、貴重なトンネル群の中から建造時期も古く、珍しい形状を有するトンネルを紹介します。

写真1 石灰石選別場直下のトンネル

2. 貴重なトンネル群

1) 青の洞門

菊池寛の小説「恩讐の彼方に」で知られた史跡青の洞門は、山国川に面する素掘りトンネル（地山が見える状態）であります。

江戸時代、諸国遍歴の旅の途中、この地を訪れた禅海和尚が鎖渡しと呼ばれる難所で命を落とす人馬を見て、洞門開削工事に取り掛かり、約30年の歳月をかけて明和元年（1764年）に完成したものです。

現在は車が通行できる状態に改修されていますが、当時の隧道部分が少し残されており、掘り進んだ際のノミ跡が残る明かり窓があります（写真2）。ノミと槌だけで掘り抜いた洞門の長さは約342m、そのうちトンネル部分の延長は約144mです。現在では想像もできないほどの苦難があったことでしょう。



写真2 明かり窓

2) 川原隧道

江戸時代に大分県日田市と玖珠町を結ぶ往還があり、その中間の日田市天瀬町には嘉永7年(1854年)に掘られた川原隧道（写真3）があります。この隧道は、「ハの字形」の石組みで覆工され、県文化財に指定されています。ちなみに、覆工は明治になると煉瓦積み、大正頃にはコンクリートブロック、場所打ちコンクリートになっています。



写真3 石組み隧道

3) キリズシ隧道

中津市三光町上深水久保に明治3年(1870年)に建造された長さ74mのキリズシ隧道があります。

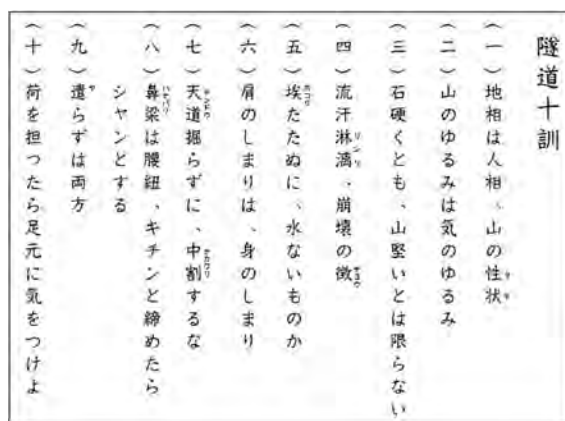
隧道の坑口断面は珍しい幅約3.0m～高さ約2.8mの矩形（写真4）を呈しており、土木学会の選奨土木遺産となっています。矩形断面の天井部は凝灰岩と火山灰の境目があり、平らな天井をもたらしたのでしょう。



写真4 矩形隧道

3. おわりに

トンネル工事で事故が多発したことから、第二次世界大戦中の昭和19年、旧国鉄の足立貞嘉氏が戒めとして作成した「隧道十訓」があります。



戒めの内容は、NATM工法の現在でも十分に通じるところがあります。トンネル工事に対して「山を舐め、油断することなかれ」と諭しており、これも貴重なトンネル群の一つに加えたいものです。

所属：梅林建設株式会社

（E-mail：r-kurahara@umebayashi.jp）

中央・統括本部情勢

理事会

理事会報告

理事 きよさき じゅん こ
清崎 淳子
(応用理学、博士(理学)・福岡)



■2021年(令和3年)3月10日(水)に2020年度第6回、5月11日(火)に2021年度第1回理事会がオンライン開催された。第6回は審議事項10件、報告事項9件、第1回は審議事項16件、報告事項11件の議事があった。6月16日(水)開催の定時総会に向け、前年度の活動報告・決算報告および新年度の活動計画・予算について審議が進められた。各事項詳細はホームページ掲載の資料を参照いただきたい。

会長より、例年と異なる新型コロナウイルス感染症対応について会員の協力へのお礼と今後も引き続き適切な対応のお願いがあった。総会資料も報告や会計に影響が見られる点も説明された。会議やCPDなどオンライン利用も一時的なものではなくなり、各種対応の整備が進められている。対応ルールの確認をと呼びかけられた。また、試験関係への影響も大きいものがあったが、対面での会議等ができない中でも滞

りなく運営できたことへ感謝の意が述べられた。

2021年度新名誉会員、フェロー認定、会長表彰者について審議があり滞りなく承認された。CPD行事のウェブ配信について規定が制定されたが、未入会も含めた検討は継続していくとされた。また、行事後援等の名義使用に関する規則制度については地域組織とも十分審議されており、明確かつ利便性を運用に生かし、例外にも柔軟に対応できるとの説明があった。

制度改革関係の経緯説明があり、4月26日の文部科学大臣通知(技術士の資格向上に関する継続研さん活動の実績の管理及び活用について)後、当会が事務主体として管理センターを設置し対応していくとのことであった。文科省は技術士法施行規則を改訂し、本会はCPDガイドラインを策定・改訂することになり、6月中にパブリックコメントを経て開始へと進む予定である。他学協会への説明も進めており、当会の新たな指定登録機関としての事務が開始される。資料等随時公開されていくので、詳細確認をして理解を進めていただければと思う。

2期4年間、様々な動きのある時期に地域選出理事として関わることができ、学ぶことも多くありました。皆様に感謝して、活動をバトンタッチ致します。ありがとうございました。

(E-mail: j1u1nj1u1n@yahoo.co.jp)

地域本部長会議

2020年度第4回 地域本部長会議報告

九州本部長 さ たけ よしろう
佐竹 芳郎
(建設、総合技術監理・福岡)



2021年2月18日(木)オンライン会議で開催の2020年度第4回地域本部長会議の概要を報告する。

[統括本部報告]

1. 文部科学省科学技術・学術審議会 技術士分科会の報告について

技術士のCPD活動の実績を管理し、その活用を促進する公的な枠組みを構築することを決定した。関連事務を日本技術士会に担わせるための通知を出すとともに、技術士法施行規則を改正すべき調整を進める。今後、本会でCPDガイドラインを制定することになる。

2. 正会員の年代別年会費の減免制度導入について

入会率が特に低い若手～中間層への入会促進と高齢会員の負担軽減策として、2021年度の請求から実施する。

[地域本部の意見・要望、報告等]

1. オンライン個別配信の参加費1000円程度を500円程度に引き下げて欲しい(中国)
→企画委員会で検討する。
2. リモート、ウェブ、オンラインなどの表現をオンラインで統一してはどうか(中国)
→当会では一応「ウェブ○○」で統一している。
3. 各地域本部から行事開催状況等についての報告があった。

・北海道本部は、青技交と社会活動委員会(技術者のミライ研究委員会)が実施している出前講座に対し、北海道札幌工業高等学校より感謝状を授与された。

・東北本部は、日韓技術士国際会議は仙台で10/30～11/1に開催する。

・近畿本部は、2022年度第48回技術士全国大会を奈良市で10/28～31に開催する。

・中国本部は、倫理委員会を新設した。

・九州本部は、NPO法人鹿児島技術士の会が2020年10月に解散したが、残余保有財産の約50万円を鹿児島県支部に寄付された。

所属：株式会社松浦重機

(E-mail: satake-yoshiro@ina.bbq.jp)

委員会・部会報告

防災委員会

防災委員会報告

防災委員会副委員長 かつき ひろのぶ
香月 裕宣
(応用理学、博士(理学)・福岡)



1. 防災委員会の役割

近年、九州では八女・朝倉の豪雨災害をはじめ、熊本地震など自然災害が多発し、それにより甚大な被害を被っている。加えて最近では、桜島をはじめとする火山の活動も活発化している。さらに、福岡市では警固断層が、九州全域を考えると南海トラフ地震が心配されているところである。

このような自然災害に伴い多くのインフラが被害を受けるが、その復旧は市民の生活を守るため迅速を要する。そのため、これまで当委員会では、災害直後に現地踏査等を行い、迅速な復旧に役立てていただくため、様々な技術士部門からのコメントを発信してきた。しかしながら、これら自然災害により命を落とす人が後を絶たないことは非常に残念なことである。そこで、当委員会の活動に災害前の平時の活動を加え、自然災害による人的な被害の軽減を目指すこととしている。

2. 災害前の平時の活動

自然災害には「備えることが大切だ」ということは、みんなが知っていることである。そして、いずれ必ず来る豪雨や地震災害などに対して「今が命を守るための準備時間」であることも理解されている。また、襲ってくる豪雨・地震や火山災害には地域性があるため「地域によって備え方が違う」ことも周知されていると思われる。しかしながら、これらのことを未だ十分に理解していない人々が多くいることも事実である。

当委員会では、これらの事柄を人々に理解していただくため、3つのワーキンググループ(WG)を立ち上げて活動を進めている。WG1では福岡県内で発生した災害について取りまとめを行い「地域によっての備え方」のヒントに繋がりたいと考えている。WG2では技術士が組織横断的にどのような支援ができるのかを把握し、自治体や地域住民、企業が地域のリスクを把握するための基礎資料を提供できるようにすることを目指している。

そして私の属しているWG3では特定の地域に入り込み「自然災害での死者・行方不明者ゼロ人」を

目指す「防災教育ネットワーク」を構築することを目標としている。

3. WG3の活動

「自然災害での死者・行方不明者ゼロ人」を目指すための手法としては防災教育となるが、ここではその対象を小学生としている。その理由の一つは、将来の地域防災リーダーを育てることを考えていることにある。さらに、ここで防災について学んだ子供たちは10年後には大人になり、20年後には世の中を動かす役割に付いている。そして、その時には世の中の防災リテラシーが今より格段に上がっていることが容易に想像できることにある。

これらを実現するため、地方自治体の教育委員会を通して小学校での防災教育への参加を狙っている。そして、そこで先生方とCommunity of Practice(実践共同体)を組み、当初は技術士による授業であったものを、いずれは教育のプロである先生方にバトンタッチし、我々はサポートに回る、かつ他の地方自治体へと活動を展開していく方針である。

これまでの具体的な活動としては、すでに小学生を対象とした防災教育が実施されている小学校での防災教育授業を5回見学させていただいた。

また、特定の地域に入り込む試みとして別の地域の教育委員会に小学校で防災教育を行いたい旨を伝え、それを受けて各小学校へ防災教育を実施する上での悩みや課題、及び専門家(技術士)に希望すること等についてのアンケートを実施していただいた。そして、このアンケートを通して小学校で実際に授業をやっていただけないかとの問い合わせをいただくことが出来た。

現段階では、初回の打ち合わせを終えたところであるが、カリキュラム上9月の開催を目標に、それまでに数回のミーティングを繰り返し、教育のプロである先生方からも様々なことを学びながら、最終的には子供たちにより良い防災教育授業ができるように進めていきたいと考えている。

4. 最後に

WG3では当初、目指す防災教育について「技術士でも出来る防災教育」か「技術士にしか出来ない防災教育」か、で議論となった。しかしながら、これまでに防災教育を実施している職員の方や小学校の先生方とお話しをする中で、今は「技術士らしい防災教育」ができるといいなと考えているところである。

所属：株式会社ジオテック技術士事務所
(E-mail: h-katsuki@geotech-eng.co.jp)

研修委員会

2021年度九州本部 第1回CPD報告

研修委員会副委員長 なかぞの 中園 けんいち 健一
(建設・福岡)



2021年5月22日(土)、福岡商工会議所406・407号室にて本年度第1回CPDを開催した。5月7日に福岡県に発出された緊急事態宣言下での開催となったが、すでに申込受付の開始後であったため、感染対策をさらに万全とした上で予定通りの実施となった。参加者は会場参加44名、Web参加47名の計91名。以下、講演内容を概括する。



受講風景

1. AI技術の活用による自然災害発生予測をベースとしたソフト対策の現在

講師：大石博之氏

(西日本技術開発株式会社本部調査部長
／博士(工学))

地震や集中豪雨などの自然災害は近年激甚化の傾向にあり、これまで事後対応に甘んじていた防災対策事業は、国土強靱化の施策に従い予防保全へと大きく舵を切る時代となった。このような状況の中、昨今話題の多いAI



大石博之先生

技術の防災分野への応用は、ソフト対策事業を中心に既に多くの取り組みがなされ、一部実用化が進んでいる。

本講演では、そのような実用化された技術の中でも歴史の深い「RBFネットワークによる土砂災害警戒避難基準雨量線の設定手法」に関する解説を行うと共に、そこから派生した最新の技術についても実例(斜面挙動監視データの管理基準値設定)を交えながらご紹介いただいた。

講師の取り組む学習分析手法におけるポイントとして、①技術者判断に頼らない客観的な評価、②対象地域ごとの分析により地域特性を反映、③警戒避難基準雨量線(通称CL)を非線形とすることにより

複雑な自然現象を精度よく再現、④災害非発生時の安全領域データを扱うことで災害履歴の少ない地域に利用可能、といった点を挙げられた。

2. 産学官連携デジタルものづくり

講師：久池井茂氏

(北九州工業高等専門学校生産デザイン
工学科教授／博士(工学))

現在、日本のシステムインテグレーションが分かる人材は、質・量ともに不足し、世界から取り残されるリスクがある。そこで、平成30年度に経産省：産学連携デジタルもの



久池井茂先生

のづくり人材育成事業で、北九州工業高等専門学校及び早稲田大学大学院情報システム研究科を始めとした産学連携チームで「中小製造業のバリューチェーンの高度化・業務革新を推進する中核人材育成カリキュラムの作成」を実施した。

製造現場での人手不足を解消するため、生産性向上に向けた生産工程の自動化・無人化を念頭においたロボット・IoT・AIなど、第4次産業革命の先端技術導入のニーズは高まっている。講師はドイツが進める「インダストリー4.0」の事例などを紹介しながら、日本におけるサイバーフィジカルシステム、ITとOTの融合の立ち遅れなどを課題として指摘し、デジタルものづくり人材育成をするためには、国際標準ツールの活用推進や、部分最適ではなく全体最適化、そして教育が極めて重要である、と説いた。

3. おわりに

宣言下での講演会にもかかわらず、会場にて貴重なお話を下さった講師の先生方には改めて心より感謝申し上げます。

コロナ対応として取り組み始めたWeb配信は、今後ともCPD受講機会の拡充を図るため、さらに充実させる必要があると考えています。

研修委員会において、現在「(仮)Web配信マニュアル」を作成中です。各委員会・部会・県支部などで広く共有できるよう、皆様のご意見を伺いながらとりまとめたいと思いますので、何卒よろしくお願いいたします。

(E-mail: nakazono@ac-s.jp)

委員会・部会報告

倫理委員会

活動報告

倫理委員会副委員長 いうち よしひと
井内 祥人
(森林・鹿児島)



1. 「九州版倫理テキスト2021年版」の編纂

2016年6月、研修委員会の中の倫理小委員会の設立及び活動から5年経った。この間、2017年度には正式に倫理委員会として昇格し、本格的な活動が始まった。2016年度、最初の取り組みで始まった「技術士倫理綱領」の勉強会は、各委員が倫理綱領の1章ずつを、研究し発表するというものであった。2017年度に全10章の研究発表を終えた。そして、2021年4月、これらの研究成果を委員の共通テキストとして編纂した。ここには10章を担当した9人の委員の考え方が網羅されている。この成果は、今後まとめる予定の「各分野の倫理問題」と「事例研究」とを合わせ、公開を予定している。

しかし、昨年度の日本技術士会の倫理綱領の改正

案及び前回の研究から5年経ていることを踏まえ、2021年度からは新委員による研究活動が始まる。そこには倫理綱領の解釈に「SDGs」の考え方も導入される。

2. 内部活動から対外活動へ

これまでの4年間の活動は、①「技術士倫理綱領」研究、②企業倫理等の各分野における倫理問題の研究、③生命倫理、環境倫理等の外部の倫理研究者との情報交換及び知識の共有、④九州管内で発生した事例研究等、委員の「相互学習型委員会」の活動が主であった。これからの2年間は、①CPD研修や県支部からの技術者倫理講演依頼への対応、②九州管内の大学、高専からの技術者倫理教育への対応、③官庁や企業への技術者倫理に関する説明会や講演依頼への対応、④他地域本部の倫理関係機関とのネットワーク作り、⑤九州版倫理テキストの作成等、「情報発信型委員会」へ活動を展開させる計画である。また活動では、委員の他にオブザーバー制度を設けることとし、各県支部会員の中で「技術者倫理」に興味を持つ会員に対し、各県支部長の推薦に基づき当委員会に参加できることとしている。

所属：中央テクノ株式会社
(E-mail: iuchi@chuuou.jp)

地域産業支援委員会

2021年度地域産業支援委員会活動報告

地域産業支援委員会委員長 まつなが えいはちろう
松永 栄八郎
(金属、機械・北九州)



地域産業支援委員会は、地域企業の産業振興の為に経産局や県の行政機関及び推進団体と連携して推進すると共に、企業・団体からの技術相談への支援を目的として活動している。また、その為の技量研鑽を図る活動を展開している。2021年度も活動の3本の柱は、以下に記すように昨年度より継続するが、それに属する個々のテーマの活動方法は、年度初めにあって見直しを行った。

2021年度の活動計画の概要を以下に紹介する。なお、委員会の開催は例年同様、四半期毎の年4回行う。

1. 技術相談対応と体制の充実

技術相談可能なアドバイザー35名を九州本部HPで公開し、吉田副委員長を窓口として対応を継続する。さらに今年度は効率化と顧客満足を狙い、県の

工業技術センターや九工大の産学連携センターとの連携も探る予定である。

2. 外部機関との連携継続と支援

行政や学術機関との交流では、特に九州経済産業局が行う「知財交流会」、産総研九州センターが主催する「九州・沖縄産業技術オープンデー」(10月予定)、中小機構が主催する「一金会」(毎月)に継続参加する。今後も各行政や学術機関との交流を継続し、地域産業支援に協力していきたい。

3. 力量向上と研鑽機会の場の設定や運用

以下の3つの対応を予定する。

- (1)各委員の研鑽のため、各委員による経験発表と質疑応答の場を設ける。
- (2)企業者からの発表においては、九州ニュービジネス協議会が主催する「二月会」(年4回)に出席する。発表者への改善点などのアドバイスを通じ、さらなる力量向上に努める。
- (3)統括本部が主催するCPD(機械部会や活性化委員会)のWEB中継開催を担当し、委員以外の技術士の力量向上の場も提供する。

以上、昨年度より一歩前進した活動を目指す。

所属：三菱重工環境・化学エンジニアリング株式会社
(E-mail: eihachiro.matsunaga@mjk.mhi.co.jp)

青年技術士交流委員会

R1 R2 年度CPD・合格祝賀会開催報告

青年技術士交流委員 **わたなべ たけし 渡辺 剛**
(機械・福岡)



令和3年5月29日(土)、公益社団法人日本技術士会九州本部及び青年技術士交流委員会による「2019、2020年度技術士試験(一次及び二次)合格祝賀CPD(研鑽会)」が福岡商工会議所ビルとオンラインで同時開催され、総数57名(新合格者19名)の方が参加されました。

■講演1

「エネルギー、環境問題に対する固体触媒開発の歴史と未来」

講師：長崎大学大学院工学研究科教授 **田邊 秀二 様**

1975年と76年に排気ガス規制が始まった日本の自動車メーカーにとって、排気ガスを無害にする触媒の開発は必須であり、三元触媒と呼ばれる固体触媒技術が開発されました。

現在、固体高分子型など各種燃料電池の開発が進んでおり、自動車、家庭、工業用、火力代替などで使われています。燃料電池には触媒が使われており、CO₂排出削減に寄与しています。

本講演では、触媒の仕組みと働き、排ガス浄化触媒の開発の歴史、今後主流となる燃料電池の仕組みについて解説されました。

質疑応答では「短期的には原子力やシェールガスを使いながら、長期的には私たちの行動変様によってCO₂排出を削減することが重要」という意見が出され、私たちが環境課題を学ぶ機会となりました。



長崎大からリモートで講演された 田邊教授

■講演2「公益社団法人 日本技術士会の活動」

講師：日本技術士会 九州本部

本部長 **佐竹 芳郎 様**

日本技術士会は、技術士制度の普及、啓発を図ることを目的とし、技術士法に基づく我が国唯一の技

術士による公益社団法人であり、2021年で設立70年を迎えます。本講演では日本技術士会の法制定・改定の経緯、設立の背景、統括本部と九州本部の組織と活動状況等をご説明いただきました。日本技術士会は、2021年から技術士のCPDの実績管理と活用の業務を開始すること、2020年に九州本部に総務・規格委員会が新たに設立されたこと、CPDや行事への積極的参加の呼びかけが行われました。

■講演3「技術士倫理について」

講師：日本技術士会九州本部

倫理委員会 **稲垣 浩通 様**

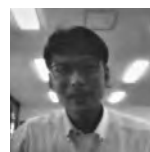
技術者に求められる倫理観について、技術士倫理綱領を軸に、持続可能な開発目標(SDGs)などと関連付けてご説明いただきました。講演のなかで、会社に重大な損失を与える倫理違反の事例を発見した際の行動を問う課題が出され、各自が公益確保について改めて考える機会となりました。最後に、技術士として高い倫理観を持ち、親や子に誇れる仕事を続けていくべきであることを提言していただきました。

■講演4「合格体験記及び技術士となって」

講師1：福田 洋平 様(機械部門) 写真上

講師2：黒木 史哉 様(化学部門) 写真下

二次試験に合格されたお二人より、「自己紹介」、「技術士との出会い」、「技術士資格取得を目指したきっかけ」、「学習の方法」、「技術士取得までに苦労したこと」、「技術士となったその後」、「今後の展望」について講演いただきました。



■新合格者自己紹介、合格者祝賀会

講演終了後、青年技術士交流委員会松永委員長より当委員会の活動について紹介されました。その後新合格者による自己紹介が行われ、会場内からは合格を祝福する多くの拍手が送られました。

緊急事態宣言下のため会食はありませんでしたが、合格者祝賀会は新たな交流の場となりました。



新合格者と佐竹本部長



合格者祝賀会

■最後に

司会進行の能勢様、書記の吉原様と黒木様、そして関係者のみなさまに感謝申し上げます。

(E-mail: ketashi514@yahoo.co.jp)

委員会・部会報告

総務・企画委員会

総務・企画委員会 のご紹介

地域産業支援委員会委員長 すえまつ まさのり
末松 正典
(機械、総合技術監理・北九州)



総務・企画委員会は委員長、副委員長、委員総数10名の構成で、2021年7月17日に開催される合同役員会で承認の上、認定される予定である。新しく設立されるにあたり、その背景や概要をご紹介します。

1. 設立背景

統括本部には総務委員会、企画委員会、国際委員会があり、それぞれ相当の業務が行われている。

一方九州本部内には同等の委員会はなく、事務局長によりこれらの関連業務のほとんどが行われている。業務過多でもあり、九州本部内でも同等の機能を担う委員会が不可欠との判断に伴い設立する運びとなった。なお、本委員会は日本技術士会「地域組織の設置運営に関する規則」第11条、及び「九州本部の運営における個別事項に関する手引き」第4条

に基づいた設置となっている。

2. 所掌業務（主要活動項目）

所掌する業務は上記「九州本部の運営における個別事項に関する手引き」の別記表2に示される以下の10項目である。(1)本部の組織・運営管理に関する事項、(2)本部主催行事の企画・実施に関する事項、(3)事業計画・報告案作成に関する事項、(4)財務の管理に関する事項、(5)統括本部、他地域本部、県支部及び他団体との連携に関する事項、(6)役員会運営及び実施に関する事項、(7)会員の顕彰に関する事項、(8)会員拡大に関する事項、(9)国際的活動に関する事項、(10)その他、他の委員会の所掌にない事項

3. 活動方針及び活動計画

活動にあたり4つの方針を掲げた(①対応が必要な事項に対する体制を整備する、②九州本部の総務・企画・国際交流に関する活動が円滑に運用できる体制を整える、③統括本部や他地域本部との交流を図る、④活動の活性化に資する企画等を実施する)。これらの方針実現に向け、年4回の委員会実施を計画しているが、独自で実施できるものではなく、他の各委員会のご理解とご協力をお願い申し上げます。

所属：IHI株式会社九州支社

(E-mail: suematsu@hkg.odn.ne.jp)

ものづくり部会

ものづくり部会 活動報告

ものづくり部会長 ほった げんじ
堀田 源治
(機械・福岡)



令和2年度はCPD・定例会ともに新型コロナウイルス感染予防の中で、中止をやむなくされたが、昨年度最後のCPDではZoom開催を決定し、九州工業大学情報工学部のキャリアセンター室長の徳丸雅夫教授による「産学連携教育の紹介と実績」、北九州市立大学国際環境工学部の辻井洋行教授による「中小企業の技術的課題と対処」の2講演を実施した。徳丸先生のご講演は、企業に入社後に失意と孤立によって離職することを防ぐために、学生時代からモノづくりの一員としての自覚と希望を芽生えさせる活動について、辻井先生のご講演は、技術や人材に不安を抱える中小企業の問題点整理と解決に向けた方向性についてのお話であった。このCPDで特記すべきは講師の一人については九州本部の事務室から講演し、もう一人は自宅からの講演ということで、

スタッフも含めて3元中継のCPDの実施となったことである。CPDのスタッフを引き受けて頂いた委員には負担が大きかったが、申し込みからURLの配信方法や、講演資料の配布や保管の取扱い、CPD認定票の発行依頼への応答など、多くの貴重な実施ノウハウを得られた。令和3年度のものづくり部会の活動としては、4回の委員会、3回の講演会、1回の工場見学を予定しており、第1回委員会を4月24日にZoom会議として実施した。当部会での今後のCPDについては、オンライン形式により技術士の有資格者のみを聴講者として実施することにした。第1回講演会は、6月26日(土)に防災をテーマとして2件の技術講演を行った。1件目は気象予報士の松嶋憲昭先生による「数値予報モデルの予想と実際—令和2年7月豪雨の降水量の予想と実際が乖離した原因—」、2件目は九州本部防災委員会の梅田和久先生による「住民参加による安全安心マップづくり(仮称)」のお話を伺った。配信方法は昨年度に開催実績のあるZoom形式で行った。また、本年度の見学会は、西日本工業大学での研究室見学が認められ、大学の先端技術見学という新しい道が開けそうである。

(E-mail: hotta@ariake-nct.ac.jp)

建設部会

建設部会報告

建設部会長(予定) **岡田 裕彰**
(建設、総合技術監理・福岡)



1. はじめに

この度の役員改選で建設部会長に就任予定の岡田です。どうぞよろしくお願いいたします。

田沼建設部会長(今年度より本部理事に就任)には、これまで3期6年にわたり建設部会の活動を支えていただきました。これまでの多大なご尽力に対して改めて感謝を申し上げます。

今年度より新たな体制となりますが、田沼部会長同様、より良い部会の運営ができるよう部会幹事一同努めてまいりますので、会員の皆様方のご協力ご指導よろしくお願いいたします。

2. 2021年度の活動計画

2021年度建設部会では、現地見学会、技術講演会(CPD)などの実施を計画しています。

昨年度は、新型コロナウイルスの感染拡大により建設部会で予定していた現地見学会、技術講演会などが、いずれも中止せざるを得ない状況となりました。

今年度予定している活動も、今後のコロナの感染状況により実施時期や内容に制約を受けることが考えられます。会員の皆様方にはご理解の程よろしくお願いいたします。

さて、長引くコロナ禍の中で家庭や職場における感染拡大を防止するため、三密の回避、時差出勤、テレワークやオンライン会議などのいわゆる『新しい日常』が定着してきています。収束はまだまだ先が見通せない状況ですが、九州本部の建設部会員の皆様が安心して技術研鑽や情報交換を行う事が出来るよう、『新しい日常』の中、できる限り工夫して活動を進めていきたいと考えています。

3. おわりに

今後とも会員の皆様のニーズに沿った企画に取り組んでいきたいと考えています。建設部会の取り組み内容についてのご要望やご意見等をお待ちしていますので、ぜひお寄せください。

所属：西鉄シー・イー・コンサルタント株式会社
(E-mail: okada@ncec.co.jp)

みどり部会

みどり部会活動報告

みどり部会長 **渡辺 正人**
(農業・福岡)



1. はじめに

令和3年3月18日(木)、九州本部で開催した、令和2年度みどり部会委員会についてその内容を報告します。

出席者は、みどり部会委員8名でした。

2. 令和2年度活動報告について

令和2年度にみどり部会の活動として計画していた「農林水産分野現地見学会」及び「森林分野講習会」は、新型コロナウイルスの影響により開催を中止しました。

なお、当初の計画には無かった活動として、令和2年8月1日に開催された「日本技術士会農業部会講演会」に、今後のCPDを検討する為、限られた範囲ではありましたが、Web中継で参加をしました。その内容については、技術士だより・九州125号で報告しています。

3. 令和3年度活動計画について

令和3年度のみどり部会の活動として、例年秋頃開催していた「農林水産分野現地見学会」「森林分野講習会」とWeb中継による講習会を計画しています。

現在、新型コロナウイルスの変異株の感染が拡大していることもあり、その状況により、現地見学会や講習会の開催方式を検討することとなりました。

4. 役員の変更について

令和2年度のみどり部会の委員は、小出剛氏、田中孝一氏、長野義次氏、橋本直樹氏、檜物勤氏、藤井裕三氏、益原寛文氏、宮津高公氏、吉村岳丸氏、山部鉄朗氏、と私の11名ですが、長年ご尽力を頂いた宮津氏と吉村氏から、令和2年度をもって委員を退任したいとの申し出があり、令和3年度からは、残る9名で委員活動を行うことになりました。部会長、副部会長については、交代する予定です。

5. おわりに

この1年新型コロナウイルスの影響により、従来の活動が出来なかったことが大変残念です。

一刻も早くコロナが収束し従来の研修会や交流ができることを祈っております。

所属：ジーアンドエスエンジニアリング株式会社
(E-mail: m.watanabe117@csf.ne.jp)

委員会・部会報告

環境部会

「環境部会報告」

環境部会長 まつ お たかのり
松尾 孝則
(上下水道、総合技術監理・福岡)



1. はじめに

西暦2020年度は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に翻弄され、毎年実施していた「現地視察研修会」、「技術講演会」の開催を見送らざるを得なかった。

このため、西暦2021年度においては、ワクチンの接種状況や新型コロナウイルス感染症の広がり等を注視しながら、直接対面型が若しくはオンライン型による研修会を予定しているところである。

しかし、可能であれば少なくとも現地視察研修会については、技術者の観点から直接対面型で開催し技術研鑽を継続したいと考えている。

2. 西暦2021年度の研修会の開催計画

今年度は、新型コロナウイルス感染症の沈静化に向かっている、ワクチン接種が充実していることなどを「前提条件」として、直接対面型にて10月下旬に現地視察研修会、11月中旬に技術研修会の開催を予定している。

3. 今後の研修会の方向性

今後、新型コロナウイルス感染症以外の新たな感染症等に対するリスクも考慮した、持続可能な研修会の開催を確保すべきであると考えている。

このため、このような環境の中での技術者の技術研鑽を継続していく上では、「直接対面型」と「オンライン型」のどちらでも柔軟に対応できるような体制作りや環境作りが重要であると考えている。

例えば、環境部会と他の部会との協力・連携による合同研修会の開催など考えられる。

4. オンラインによる現地視察研修会の制作

前回、本誌で紹介した環境部会で初めての取組であるオンラインによる現地視察研修会用動画の制作は、西暦2021年5月に完成した。

環境部会において、西暦2020年12月から「環境に貢献するやさしい水処理センター」をテーマにして、動画・撮影・編集を進めていたものである。

制作開始から約6ヶ月を経て、この度、オンラインによる環境部会現地視察研修会として1時間のCPD動画を制作し、西暦2021年6月21日に開催した。

5. 研修会用動画制作の過程と見えてくる課題

研修会用動画制作の過程と、その中で見えてくる課題について紹介する。

1) 講師

・福岡市役所を通し、福岡市西部水処理センター所長に講師を依頼

2) テーマ

・動画を撮影しやすい「環境に貢献するやさしい水処理センター」として福岡市西部水処理センターを選定

3) スタッフ

・撮影と編集は、福岡市役所技術士会の協力
・空撮については、協賛会社である大和コンサル株式会社の協力

4) 動画撮影

・福岡市役所技術士会と動画撮影の日時調整
・空撮については、風速5m以下

5) 編集

・無料ソフトで編集

6) 見えてくる課題

・制作を専門に委託していないため、「期間を要する」、「動画は1時間が限界」、「動画編集の修正が困難」であると思われる

3. おわりに

どのような環境下におかれても、私たち技術者は、技術研鑽を継続していく必要がある。

このため、多くの方々が技術研鑽していただけるよう活動を継続したいと考えている。

所属：大和コンサル株式会社

(E-mail: matuo@daiwaconsul.co.jp)

原稿を募集しています

会員の皆様から、下記の原稿を募集しています。
「ミニ特集」：日ごろ興味を持って取り組んでいる
趣味や特技、社会貢献、心に残る言葉、出会い等々 800字程度(本誌の1/2頁)

連絡先：九州本部事務局(TEL 092-432-4441)

支部だより

北九州

北九州地区支部 幹事・顧問紹介

副代表、広報 みやざき 宮崎 てるみ 照美
(環境・北九州)



北九州地区支部技術士会は1980年に設立され、現在は研修会（CPD）を毎月実施しており、昨年5月に400回目の節目を迎えました。昨年はコロナ禍の中、数回、CPD開催を見送らざるを得なかったのですが、現在はコロナ対策も含めた諸体制を整え、会員希望の聴講スタイル（会場またはオンライン）で参加可能となっています。オンラインは初めての試みでしたが、遠方からの参加者も増え、メリットもありました。

このCPD運営に当たっては、代表1名、副代表2名を含む12名の幹事と顧問4名の計16名が中心となり活動しています。幹事・顧問は年齢や男女比および所属先も含めバランス良く人員構成されており、会員にとって有益なCPD開催のために、日頃より盛

んに意見交換が行なわれています。今回は、北九州地区支部の幹事・顧問の皆さんを紹介します。

★代表：佐倉克彦 ★副代表：坂田一則、宮崎照美
★総務・会計：鈴木淳 ★情報配信：伊藤陽
★研修：坂田一則、伊藤陽、牟田英昭、河野公志
★広報：宮崎照美 ★会計監事：寺師政廣、小柳嗣雄
★幹事：西井康浩、村上恵美子、八百屋さやか、
竹内良治、井ノ口章二
★顧問：長崎治夫、末松正典、寺師政廣、小柳嗣雄



全国の技術士の皆さん、参加をお待ちしております。

所属：日鉄環境株式会社

(E-mail: t.miyazaki.nske@gmail.com)

熊本

非日常下での 支部活動状況

せきもと 関本 いくお 郁夫
(建設・熊本)



熊本県は近年において数次の大きな災害に見舞われました。しかし、順調とは言えないものの、みなさまの温かいご支援を受けながら、少しずつでも確実に復旧を遂げつつあります。そのような地域社会活動の状況下において、今度は世界規模での未曾有の災害にあつという間に飲み込まれてしまいました。

このため令和2年度の熊本県支部活動は、かろうじて県支部主催CPD研修会を2回開催するにとどまりその他の企画はすべて取り止めざるを得ませんでした。ここでは、残念ながら取り止めた企画のなかでも実施直前で中止の憂き目にあった現場見学会について、みなさまにご紹介したいと思います。当会は熊本地震の被災状況や復旧過程を、一般の人は入場できないエリアまで立ち入らせていただいて、かつ作業当事者に直接ご説明までしていただける、と

ても希有な体験ができる見学会になる予定でした。実はその一年前にも同じルートでの見学会を企画実行し、県外からも複数の参加者があるなどし、とても有意義でしたと喜んでいただけました。今回は敢えて同じルートで企画し、一年後にそれらの箇所がどのように復旧を遂げているのか、あるいは遅々として進んでいないとの印象を持たれるのか、いずれにせよ参加者にはとても貴重な体験をしていただけるものと確信していた企画だっただけに、中止はとても残念でした。この原稿を書いている時点は支部幹事選挙の結果待ちですのでもなんとも言えませんが、継続して幹事をやらせていただければなら一年飛ばしであっても同じことを企画できたらいいなと思っています。3年が経過してもなお同じルートで災害復旧工事の現場見学会が企画できれば、それは熊本県に起こった災害の大きさが、数年～数十年単位でしか復旧が進まない巨大なものであることを改めて回顧するいい機会にもなるでしょう。

もちろん現場見学会のみならず、その他の企画も実施できる世の中に戻ることを切に願います。最後になりましたが、改めまして熊本県に起こった数次の大きな災害に当たりましては、みなさまには暖かいご支援ご援助を賜りましてありがとうございます。

(E-mail: sekimoto333k-sekimoto333k@tkz.bbq.jp)

支部だより

宮 崎

令和3年度技術士制度および 技術士試験説明会について

支部事務局長 みつどめ 満留 やすひろ 康裕
(建設、総合技術監理・宮崎)



宮崎県支部では毎年、技術士をめざす技術者の方等を対象に標記説明会を開催しており、新型コロナウイルス感染拡大や前年度の第二次試験合格発表が4月にずれ込むなど、例年と異なる状況の中、4月3日に実施しましたので、その概要について紹介いたします。なお、一次試験受験予定者は引き続き二次試験合格を目標としていることから、一次試験、二次試験合同の説明会としています。

説明会開催の周知を広く行うため、各行政機関や業界団体の長に、関係者(受験予定者含む)へのご案内をメール等にてお願いしました結果、12名(建設業4名、建設関連5名、自治体2名、公益団体1名)、またそのうち女性は2名の参加がありました。

新型コロナウイルス対策については、例年、20～30名近くの参加があったことから、想定参加者数が会場定員の5割未満になるよう収容人数60名の

会議室を確保し三密防止を図りました。

説明会内容としては、①技術士制度の概要、②令和3年度技術士試験について、③技術士第二次試験受験申込書記載について、④合格体験談、の進行で行いました。①～③は説明資料として九州本部から送付いただいた「令和3年度技術士第二次試験受験申込み案内」を参加者全員に配布しました。

この中で参加者が最も関心を持たれたのは④の合格体験談のようでした。令和元年度合格者の方2人に講師をお願いしましたところ、年度当初の業務多忙の中で快くお引き受けいただき、貴重なお話がありました。講師の年齢が若かったこと、単なる体験談ではなく合格後の抱負や心構えまで言及されたこと等により、出席者が技術士を目指される意欲が高まったのではと感じたところです。

本県支部活動を活性化するには、やや建設部門に偏重している会員の部門構成を幅広くすること、若手や女性の参画が必要であると考えています。そのためには技術士試験に挑戦する多くの部門の技術者への支援が必要と考えておりますので、この説明会を重要な機会と捉え、今後も改善を進めながら継続していきたいと思っております。

所属：株式会社都城技建コンサルタント
(E-mail: yasu-mitsudome@kyudai.jp)

鹿児島

鹿児島県支部だより

副支部長 たかあぜ 高畦 ひろし 博
(建設、総合技術監理・鹿児島)



■昨年度のCPD総括

昨年度は、新型コロナウイルスの感染拡大から、2020(令和2)年2月、5月、11月のCPDを中止した。毎回県内、九州管内各1名の講師に依頼してきたが、感染リスク低減から、8月、2021年2月のCPDは、県内講師1名による講演とした。執筆時点、本県を含む九州各県での感染拡大傾向を踏まえ、残念ながら5月CPDも中止とした。講師の方には度重なる中止にも関わらず、同意いただいたことに紙面をお借りしてお礼申し上げます。

■技術士二次試験受験申込書配布会の開催

当支部では、4月3日(土)に配布会を開催した。当日来場された方は、若干名ではあったが、受験を希望する方々の試験にける意気込みを生で聞く貴

重な機会を得た。振込用紙がついていて便利、WEBではよくわからないとかいった声があった。

中には、社内での受験相談に備えて情報収集を目的として来場された先輩技術士もおられた。先輩からは、昔仲間とともに勉強会を開催して受験に向けて切磋琢磨した話などもあり、当時の状況を聞く貴重な機会を得た。近年WEBによる受験申込書の取得が大勢と聞かれましたが、配布会の催しは、受験を志す方との貴重な交流の場であったと思っている。

■ホームページ開設

本年3月から遅ればせではあるが、当支部でもホームページを開設した。掲載内容は、鹿児島県支部の沿革や組織体制、CPDの開催履歴などである。URLは、大分県支部を参考に独自ドメインを取得した。掲載写真は、全て会員からの提供によっている。今後会員用ページなどを充実させて、会員相互の交流の場にしていきたいと考えている。鹿児島県支部のURLは、下記のとおりである。お暇なときにでも立ち寄っていただければ幸いです。

公益社団法人日本技術士会 鹿児島県支部

<https://www.pekyusyu-kagoshima.com/>

所属：大福コンサルタント株式会社
(E-mail: hiroshi.takaaze@nifty.ne.jp)

会員ニュース

公益社団法人 日本技術士会(九州本部) 入会

〈令和3年2月〉

(所在地)(区分)	(氏名)	(部門)	(勤務先)
大分 正会員	後藤 雅之	建設 総合技術監理	協同エンジニアリング 株式会社 大分本社
福岡 正会員	田中 孝幸	建設	株式会社大林組 九州支店七隈地下鉄JV工事事務所
長崎 正会員	吉本 龍一	建設	(株)大島造船所 鉄構事業部 鉄構部
福岡 正会員	吉田 俊雄	上下水道 総合技術監理	横河電機株式会社 MK本部 イノベーションセンターイン キューベーション部
熊本 準会員	吉田 省吾	上下水道	九州テクニカルメンテナンス 株式会社 第1事業部瀬戸事 業所

〈令和3年3月〉

(所在地)(区分)	(氏名)	(部門)	(勤務先)
福岡 正会員	中川 隆行	建設 総合技術監理	株式会社異設計コンサルタント
大分 正会員	樋口 昭	建設 森林	大分県治山林道協会 業務部
福岡 正会員	福澤 一博	建設	(株)スリーエヌ技術コンサル タント
長崎 正会員	三厨 晋也	建設	長崎県長崎振興局 道路維持課
鹿児島 正会員	宮園 稔二	建設	株式会社建設技術研究所 九州支社鹿児島事務所
熊本 正会員	小田 幸広	上下水道	株式会社九電工 空調管技術部
鹿児島 正会員	森 文市郎	上下水道 総合技術監理	アジアエンジニアリング株式 会社 鹿児島支店
福岡 正会員	下舞 寿郎	農業	NTCコンサルタンツ株式会社
大分 正会員	堤 克一路	化学	ENEOS(株)大分製油所 製油 技術グループ

お知らせ

■理事就任おめでとうございます

令和3年度の理事改選で、九州本部の田沼 和夫氏(建設、総合技術監理・福岡)が理事に就任されました。

■会長表彰おめでとうございます。

令和3年度、九州本部から4名の方が会長表彰を受けられました。

小倉 駿氏(建設・福岡)、稲垣浩通氏(建設・福岡)

松尾孝則氏(環境、総合技術監理・福岡)

西尾行生氏(機械・福岡)

■年次大会

令和3年度の年次大会において、下記の講演も予定されています。詳細はホームページをご覧ください。

日時 令和3年7月17日(土) 13:00~16:00

場所 福岡商工会議所 407号

講演 「(仮)コロナウィルスとPCR検査」

中牟田啓子氏 福岡市保健環境研究所 所長

■第2回CPD

令和3年度の第2回CPDが下記の内容で開催されます。詳細はホームページをご覧ください。

日時 令和3年7月24日(土) 14:00~17:00

場所 福岡商工会議所 406, 407号

講演ー1 「5G(通信)関連と災害時の携帯通信」

藤井輝也氏 東京工業大学工学院、
ソフトバンク(株)(兼任)/博士(工学)

講演ー2 「建設系ICTの現状と今後の展望」

森下博之氏

国土交通省九州地方整備局企画部長

■会員数

九州本部及び全国の会員数(2021年3月末)をお知らせいたします。

九州本部の会員数

本部・支部別	九州本部		
	正会員	準会員	合計
福岡・北九州	661	95	756
佐賀	67	10	77
長崎	103	22	125
熊本	106	24	130
大分	116	17	133
宮崎	80	14	94
鹿児島	101	23	124
計	1,234	205	1,439

全国の会員数

地域本部	全国		
	正会員	準会員	合計
北海道	1,045	130	1,175
東北	1,165	199	1,364
北陸	656	150	806
中部	1,272	352	1,624
近畿	1,935	470	2,405
中国	772	168	940
四国	394	80	474
九州	1,234	205	1,439
地域本部以外	7,192	1,535	8,727
計	15,665	3,289	18,954

※地域本部以外は、関東・甲信地区(茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県及び長野県)及び沖縄県を示す。

協賛団体会員

.....[福 岡].....	(株)唯設計事務所	(株)九州開発エンジニアリング
(株)エム・ケー・コンサルタント	[北九州].....	(株)建設サポートセンター
(株)カミナガ	(株)永大開発コンサルタント	(株)興和測量設計
(株)建設環境研究所九州支社	(株)松尾設計	(株)水野建設コンサルタント
(株)建設技術研究所九州支社	[佐 賀].....	[大 分].....
(株)久栄総合コンサルタント	朝日テクノ株式会社	九建設計(株)
産業開発コンサルタント(株)	(株)エスジー技術コンサルタント	ダイエーコンサルタント(株)
(株)サンコンサル	九州技術開発(株)	東洋測量設計(株)
ジーアソドエスエンジニアリング株式会社	(株)九州構造設計	西日本コンサルタント(株)
第一総合技術(株)	(株)コスモエンジニアリング	(株)日建コンサルタント
第一復建(株)	新栄地研(株)	日進コンサルタント(株)
大成ジオテック(株)	(株)親和コンサルタント	松本技術コンサルタント(株)
大和コンサル(株)	(株)精工コンサルタント	[宮 崎].....
(株)高崎総合コンサルタント	(株)トップコンサルタント	(株)アップス
(株)テクノ	西日本総合コンサルタント(株)	九州工営(株)
西日本技術開発(株)	日本建設技術(株)	(株)ケイディエム
西日本コントラクト(株)	[長 崎].....	(株)国土開発コンサルタント
日鉄鉱山コンサルタント(株)九州本社	扇精光コンサルタンツ(株)	(株)白浜測量設計
日本工営(株)福岡支店	(株)実光測量設計	南興測量設計(株)
日本地研(株)	大栄開発(株)	(株)西田技術開発コンサルタント
富洋設計(株)九州支社	太洋技研(株)	(株)東九州コンサルタント
平和測量設計(株)	[熊 本].....	(株)都城技建コンサルタント
(株)ヤマウ	(株)有明測量開発社	[鹿児島].....
		(株)久永コンサルタント

次 回 の 予 告 (第129号 令和3年10月)

- 九州本部の新体制
- 九州本部第2回CPD報告

編 集 後 記

ウィズコロナの生活が始まってから、早くも1年が経過しました。ワクチン接種が進んでいる諸外国では、かなり元通りに近い生活を取り戻している報道も目にするようになりました。感染力の強い変異株の出現などもあり、まだ気を抜けない生活が続きますが、少し希望も見えて来ている感覚もあります。この1年、技術士の活動も大きく変わりました。見学会を筆頭に、会合形式でのイベントは軒並み中止や延期になりましたが、WEB会議形式や動画配信形式での開催に取り組んでいる支部や部会もあります。基本的な感染防止対策を徹底しつつ、ワクチン接種による集団免疫の獲得が進んでいくことで、そう遠くないうちに、気兼ねなく意見を交わすことのできる行事の開催も可能となるでしょう。そんな日を期待しつつ、地道に日常を積み上げていきましょう。(松田)

編集：広報委員

【福 岡】伊藤 整一、久保川孝俊、棚町 修一
西尾 行生、長野 義次、松田 敦
【北九州】宮崎 照美 【佐 賀】合志 勉
【長 崎】山口 昭光 【大 分】竹内 一博
【熊 本】勇 秀忠 【宮 崎】満留 康裕
【鹿児島】井内 祥人

発 行：公益社団法人 日本技術士会九州本部
〒812-0011 福岡市博多区博多駅前3-19-5
(博多石川ビル6階D2号室)
九州本部： ☎(092)432-4441
FAX(092)432-4443
E-mail:pekyushu@nifty.com
九州本部ホームページURL：
<http://www.pekyushu.com/>
印 刷：株式会社チューエツ